

PROBLEM PARADISE

Issue 91

Vol.23

July-September 2020



Journal of Japanese Chess Problem Society

Contents

Orthodox	……1
Endgame	……5
Helpmate	……12
Selfmate	……21
Fairy	……23
Retro	……32
Shogi	……37
Informal Tourney Award Orthodox 2018-2019 (Judge: Mike Prcic)	……42
リレー・エッセイ 私のお気に入り (第3回)	
良き趣味 (原啓介)	……48
Definitions	……54
第 89 号解答成績	……57
WCCT-11 課題	……11, 20, 22, 31, 36, 47, 56

各セクションごと、および全体で、1 題 5 点として成績を集計します。オーソドックスの #2 以外の作品については、主要変化と思われるものをすべて記入してください。短評大歓迎。各セクションごとに別紙を使用し、それぞれに氏名を記入すること。締め切りは **2020 年 10 月 30 日** 消印有効。宛先は Solution Editor の若島まで。また、作品の投稿は直接に担当者へ。

All solutions should be sent to the Solution Editor Tadashi Wakashima (Niina 7-8-13, Minoh-shi, Osaka 562-0005, Japan) before **October 30, 2020**. Please write down your solutions of each section in separate sheets. Solutions and comments by e-mail (tadashi@hcn.zaq.ne.jp) are most welcome. All originals should be submitted to the sub-editors. Their names and (e-mail) addresses are given on the back cover. Computer-tested problems are indicated by C+.

第 91 号をお届けします。

国別対抗戦の創作競技第 11 回 WCCT の課題を掲載しました。日本も参加しますので、チームに加わって作品を投稿してみたいという方、協力したい、オブザーバーとして参加したいという方は、若島までご連絡ください。クラウドで共同作業をしておりますので、そちらのフォルダへの招待状をお送りします。

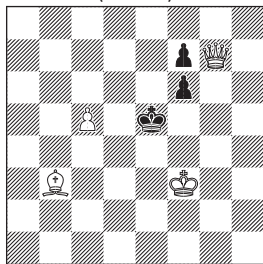
なお、作品投稿の締め切りは 2021 年 7 月 1 日ですので、遅くとも 6 月 30 日までにはこちらにお送りください。

くわしい要項や例題は、こちらをご覧ください。

<https://www.wfcc.ch/11th-wcct-announcement/>

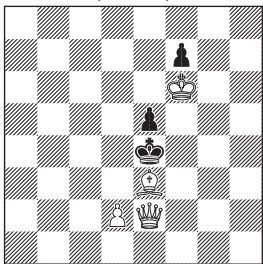
長いあいだ、表紙のデザインを板倉徹一郎さんに担当していただきましたが、ご都合で今号までになりました。これまでのご協力を感謝します。

D543 Eligiusz Zimmer
C+ (Poland)



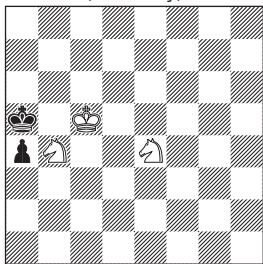
#2 (4+3)

D544 Eligiusz Zimmer
C+ (Poland)



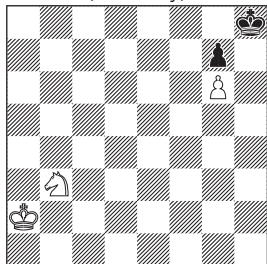
#3 (4+3)

D545 Claus Grupen
C+ (Germany)



#9 (3+2)

D546 Claus Grupen
C+ (Germany)



#11 (3+2)

Orthodox

Orthodox Editor

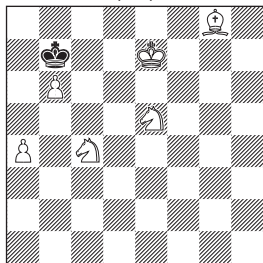
Yuji Kikuta (菊田裕司)

Judge 2020-2021

Valery Kopyl (Ukraine)

Issue 89 (D531-539)

D531 David Mealor
C+ (UK)



#2 (6+1)

1.Sd7!

1... Ka8/Ka6/Kc6/Kc8

2.Bd5/Sc5/Sa5/Sd6 #

神在：C P 人生初解図。Sの威力は絶大の感。

☆初解図おめでとうございます。正解です！
 太刀岡：真っ白なので考えやすい。
 黒川：動かしても良さそうな駒が少ないので考えやすい。

星野：逃げられそうでも、クモの糸が張り巡らされている感じ。

九尾：易しかったです。ひとつだけ B で詰める変化があり、これは評価上のマイナスになるのでしょうか？

☆ S で詰ますのがテーマというわけでもないのですが、逆に全部 S で詰ますだとプラスポイントになるような気がします。

水野：おなじみのスターフライト

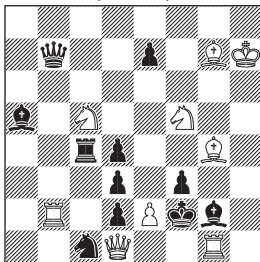
若島：All set plays are unprovided.

☆やっぱりそれは大きなマイナスでしょうか。

☆易しいですがうまくできていて入門用には最適だと思います。全員正解でした。

[○ 12 △ 0 × 0 - 0]

D532 Gerard Doukhan
 C+ (France)



#2 vvv (9+11)

- 1. exd3? (2. Qe1#) But 1... Se2!
- 1. e3? (2. Qe1#) But 1... Rc2!
- 1. e4? (2. Qe1#) But 1... Qxb2!
- 1. exf3! (2. Qe1#)
- 1... Qxb2/Rc2/Se2/Bf1
- 2. Se4/ Bxd4/Sxd3/ Qxf1#

Author: - Albino - Black unpin refutation

黒川：紛れ3つというのはポーンをどこに動かすかということだろうか。

☆その通りです。Pは全部で4通りの動かし方があり、それが紛れと本手順に入っている Albino というテーマです。

内田：アルビノなので Try が鮮明
 水野：v が 3 つと P の位置から解がひらめきました。

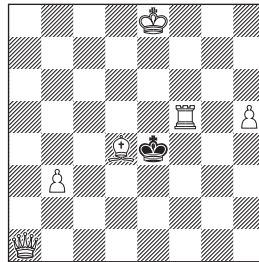
九尾：「vvv」の解釈で少考。かなり悩んだあとで、P に 4 通りの動き方があることに気が付き、やっと解決。「vvv」の意味も分かりました。

星野：V が全部解けて良かった。

太刀岡：一番邪魔にならない場所へ。

[○ 10 △ 0 × 2 - 0]

D533 Petrasin Petrasinovic
 C+ (Serbia)



#3 (6+1)

- 1. Bf6! waiting
- 1...Ke3 2.Qd1 Ke4 3.Qf3#
- 1...Kxf5 2.Qd4 Ke6 3.Qe5#
- 1...Kd3 2.Rf2 (3.Qd4#)

九尾：最初に Q を動かしたくなってしまう、嵌りました。

宮嶋：最後の最後に考えたのが 1. Bf6! だった。

黒川：ルークを取られても良い手段の発見。

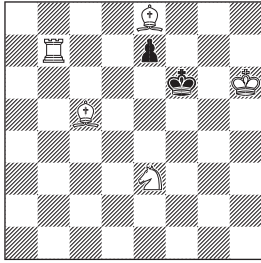
太刀岡：Q の可動域を広げるキーだが、それにより変化が 1 つ増えるのが面白い。

若島：wPh5 の役割を考えると、キーはこれしかない。

☆ 1...Kxf5 のことを考えるとキーはこの一手という感じで、そのあとちよっと物足りません。

[○ 9 △ 0 × 0 - 3]

D534 Petrasin Petrasinovic
C+ (Serbia)



#3 (5+2)

- 1.Rb4! waiting
 1...Ke6 2.Re4+(A) Kf6 3.Bxe7#(B)
 1...Ke5 2.Bxe7(B) Ke6 3.Re4#(A)
 1...e6 2.Sg4+ Kf5 3.Bg6#
 (1...e5 2.Rb6#)

黒川：初手は第一感で合っていたが、e6 に対する策に苦戦。

九尾：解けてみれば自然な初手。
 (ひとつだけ短い変化があるのが気がかりです。)

☆本手順より短い変化があるのは特にキズということにはなりません。

星野：Bxe7 の waiting が気持ち良い。

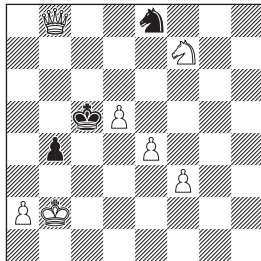
太刀岡：一直線に並ぶ変化が面白い。

☆これが創作の出発点でしょうか。

☆ 1.Bg6? の誤解がありました。1...Ke5 2.Kg5 e6! で逃れます。

[○ 6 △ 0 × 1 - 5]

D535 Petrasin Petrasinovic
C+ (Serbia)



#3 (7+3)

- 1.Kc2! waiting

- 1...Kd4 2.Qb6+ Kc4 3.Se5#
 1...Kc4 2.Qb6 (3.Se5#) 2...b3+ 3.axb3#
 1...Sc7/Sd6/Sf6/Sg7 2.Qa7+ Kb5/Kc4 3.Sd6#
 1...b3+ 2.Kc3 (3.Qb4#)

黒川：渋い初手。

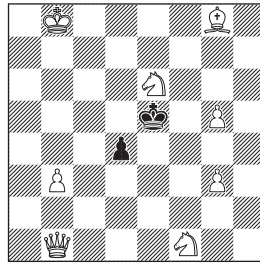
太刀岡：ぼんやりした手で難しかった。

宮嶋：ヘタに S を動かすと泥沼に嵌る。

☆キーがぼんやりしているうえにチェックをかけさせるので見えにくいです。逆に慣れてくるとそういうのが見えやすくなるのかもしれないが。

[○ 4 △ 2 × 1 - 5]

D536 Petrasin Petrasinovic
C+ (Serbia)



#3 (8+2)

- 1.Qc1! threat 2.Sxd4 (3.Qf4#)
 2...Kd6 3.Qc7#
 2...Ke4/Kxd4 3.Qe3#
 1...Kd5 2.Sxd4+ Kd6/Kxd4/Ke5 3.Qc7/Qe3/Qf4#
 1...Ke4 2.Sxd4 Kd3/Kxd4/Ke5 3.Qe3/Qe3/Qf4#
 1...d3 2.Qc5+ Ke4 3.Sd2#
 1...Kd6 2.Qc7+ Kd5 3.Sc5#
 1...Kf5 2.Qf4+ Kg6 3.Qf7#

宮嶋：多彩な紛れと変化。素晴らしい作品をありがとうございました。

若島：2.Sxd4 と食う手さえ見つければ。

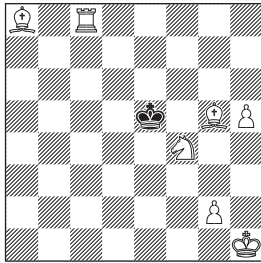
星野：一步控える Qc1 は迫りがつづくのだが、Ke4 に対する Sxd4 が素晴らしい一手で解けて嬉しい。

☆キーがとても見えにくいと思います。この

キーは waiting ではなくスレットがあるのですが、1...Kd5/Ke4 の変化とほぼ重なっているのが少し味が悪いところです。

[○3△0×0-9]

D537 Petrasin Petrasinovic
C+ (Serbia)



#4 (7+1)

- 1.Kg1! waiting
 1...Kd6 2.Bf6 Kd7 3.Rd8+ Kc7 4.Sd5#
 1...Kf5 2.Rc5+ Kg4 3.Bf3+ Kg3 4.Se2#
 1...Kd4 2.Bf3
 2...Ke5 3.Rd8 (4.Rd5#)
 2...Ke3 3.Se2+ Kd3 4.Rc3#

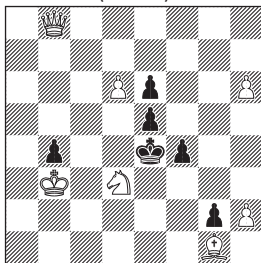
星野：解けて見れば当然だが、先に動くと詰まないのじっと Kg1 は素晴らしい。

黒川：黒が 1 手目で Kf5 の時にきれいに 4 手で詰ますには ... という感じで 1 手目を限定出来たので解きやすかったが、2 手目以降も一筋縄ではいかない。

☆これもキーが見えにくいと思います。

[○3△0×0-9]

D538 Petrasin Petrasinovic
C+ (Serbia)



#4 (7+6)

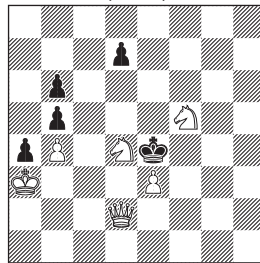
- 1.Qg8! waiting
 1...Kf5 2.Sc5 threat: 3.h4 f3/Kf6 4.Qg5#/Qxe6#
 1...Kd5 2.Qa8+ Kxd6 3.Qb7 (4.Bc5#)
 1...Kf3 2.Qg6 threat: 3.Sc1 e4 4.Qh5#
 2...Ke2 3.Qxg2+ Kxd3/Kd1 4.Qc2#
 1...f3 2.Qh7+ Kd5 3.Qb7+ Kxd6 4.Bc5#
 (1...Kxd3 2.Qxg2 ...3.Qc2#)

若島：初手がほぼ絶対。

星野：Kf5 に対してどうやって詰ますのかと思ったが、ゆっくり h4 が間に合うとは脅威だ。☆チェックをかけずに攻める手が多く、詰ませにくいと思います。1...Kxd3 の変化が full length でないのでスターフライトと言いくいのがマイナスポイントだと思います。

[○1△1×0-10]

D539 Leonid Makaronez
C+ (Israel)



#4 (6+5)

- 1.Qa2! waiting
 1...d6 2.Qg2+Ke5 3.Qb7 d5/Kf6 4.Qe7/Qg7#
 1...Ke5 2.Qg2 d5 3.Qg4 Kf6 4.Qg7#
 2...d6 3.Qb7 d5/Kf6 4.Qe7/Qg7#
 1...d5 2.Qh2 Kd3 3.Qc2#

星野：Qg2 ~ Qb7 を発見して、やっと詰んだ。S の利きは難しい。

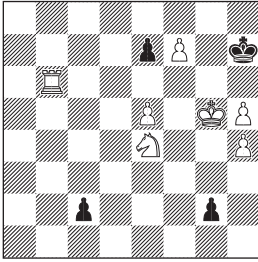
太刀岡：巧妙な Q の動きで K をコントロール。

若島：変化が基本的に 1 通りしかないのは興を削ぐ。

☆たしかにどの変化もほぼ同じような感じで詰ませるのはあまり面白くないです。

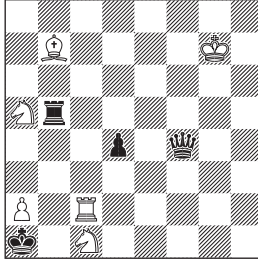
[○2△1×0-9]

E147 David Gurgenzidze
(Georgia)



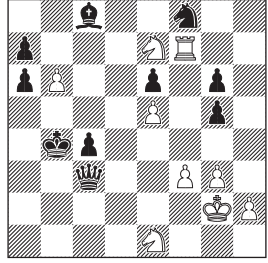
Win (7+4)

E148 Amatzia Avni
Vladislav Tarasiuk
(Israel, Ukraine)



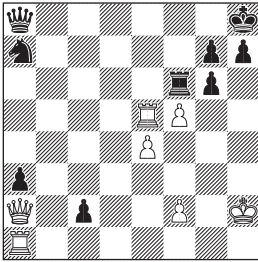
Draw (6+4)

E149 Jan Timman
(Netherlands)



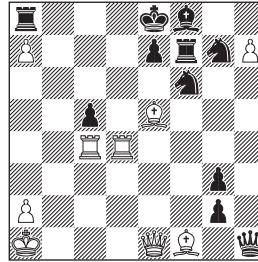
Draw (9+10)

E150 Peter Krug
(Austria)



Win (7+9)

E151 Peter Krug
(Austria)



Win (9+11)

Endgame

Endgame Editor

Hiroshi Manabe (真鍋 浩)

Judge 2020-2021

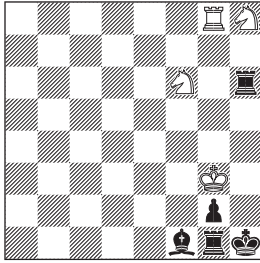
Mario G. Garcia (Argentina)

は初手の選択に気をつけて、後はバックランクを巡る攻防です。E151 は派手な応酬が続きますが、読み切ってください。

Issue 89 (E135-139)

E147 はとても分かりやすい手順の小品ですので、必ず挑戦してみてください。E148 は前半はクイーンをどうやって捕まえるか、後半は Try に気をつけて手を進めてください。E149 は筋に入るまでは手が広く大変かも知れませんが、最後はきれいなドローになります。E150

E135

Peter Krug
(Austria)

Win

(4+5)

1.Sg4 Rf6 2.Sf7 Rf3+ 3.Kxf3 Be2+ 4.Kxe2
Re1+ 5.Kf3 Re3+ 6.Sxe3 g1=Q 7.Sg5
Qh2 8.Rc8 Qh5+ 9.Sg4 Qh3+ 10.Kf4 Qa3
11.Rh8+ Kg1 12.Sf3+ Kf1 13.Rh1+ Ke2
14.Re1+ Kd3 15.Re3+ Win

☆ Sf2# が見えていますが、初手 1.Se4? とするのは、1...Rf6 2.Sf7 Rf3+ 3.Kxf3 Be2+ 4.Kxe2 Re1+ 5.Kf3 の時に 5...Rxe4! とナイトを外されてドローです。正解は Rxe4 を防ぐ、1.Sg4 です。

☆ 1...Rf6 に対して、2.Sg6? は、2...Rf3+ 3.Kxf3 Be2+ 4.Kxe2 Re1+ 5.Kf3 の時に 5...Rf1+ と戻られて、これもドローです。

☆ 作意の 2.Sf7 は、2...Rf3+ 3.Kxf3 Be2+ 4.Kxe2 Re1+ 5.Kf3 の局面で、5...Rf1+ に対して 6.Sf2+ 以下のメイトを用意したものです。そこで黒は 5...Re3+ 6.Sxe3 と捨ててから 6...g1=Q とプロモーションします。

☆ これまでのメイト狙いから一転、白は 7.Sg5 から 8.Rc8 と緩やかに網を絞るのが正解です。このルークの位置は限定で、8.Rd8? なら Qh5+ 9.Sg4 Qh3+ 10.Kf4 Qf1+ 11.Sf3 Qc4+ とステイルメイト含みで Q に迫られてドローです。

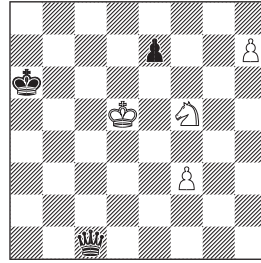
☆ 本譜は、同様に 8...Qh5+ 9.Sg4 Qh3+ 10.Kf4 と迫られても、10...Qf1+ ~ 11.Qc1+ /Qc4+ の筋が R の効きで消されているので、黒は 10...Qa3 と手待ちするしかありません。11.Rh8+ 以下は易しい勝ちになります。

黒川：初手 Se4 と迷う。初めてエンドゲームにちゃんと取り組んでみたが、要領がつかめず、解答は全く自信なし。

☆ 狙いのわかりやすい作品で、本問だけ解答を頂いた 3 名を含め、計 8 名の解答者を集めました。形と比べて作意はやや難しく、2 名が初手で、3 名が 2 手目で間違え、残りの方も正しく作意にたどり着いた方は居ませんでした。

[○ 0 △ 6 × 2]

E136

Valery Kalashnikov
(Russia)

Win

(4+3)

1.h8=Q e6+! 2.Kxe6 Qc6+ 3.Sd6 Qxf3
4.Qa1+ Kb6 5.Qd4+ Ka6! 6.Qa4+ Kb6
7.Qb4+! Ka6 8.Qb5+ Ka7 9.Sc8+ Ka8
10.Sb6+ Ka7 11.Qa5+ Kb7 12.Qa8+ Win

☆ 必然の初手 1.h8=Q に対して、1...e6+ 2.Kxe6 (2.Ke5? Qe1+! 3.Kd6 Qb4+! 4.Kxe6 Qb3+ Draw) の手筋から 2...Qc6+ ~ 3...Qxf3 までは自然な導入部。

☆ 白はクイーンのパワーを活かして、4.Qa1+ ~ 5.Qd4+ ~ 6.Qa4+ と迫り、6...Kb6 の局面が考え所です。

☆ 7.Qb5+? Kc7! は続かないのですが、控えて 7.Qb4+! が好手。今度 7... Kc7 には、8.Sb5+ Kc8 9.Qc5+ Kb7 10.Qa7+ で勝ちです。

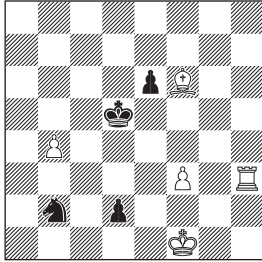
☆ 作意は 7...Ka6 ですが、8.Qb5+ Ka7 9.Sc8+ Ka8 10.Sb6+ と再度クイーンを素抜いて勝ちになります。

塩見：実戦に現れそう。そして、お互いにバタバタやっているうちにメイトになりそう。

若島：7.Qb4+ と控えて 8.Sb5+ を作る手段を思いつくのにかかった。

[○ 2 △ 1 × 5]

E137 Michal Hlinka
Lubos Kekely
(Slovakia)



Draw (5+4)

1.Rh5+ Kd6 2.Be5+ Kc6 3.b5+! Kb6
4.Bd4+ Kb7 5.Rh7+ Kc8 6.Rh8+ Kd7
7.Rh7+ Ke8 8.Rh8+ Kf7 9.Rh7+ Kg8
10.Rh8+ Kf7 11.Rh7+ Ke8 12.Rh8+ Kd7
13.Rh7+ Kd6! 14.Be5+! Kxe5 15.Rd7
d1=Q+ 16.Rxd1 Sxd1 17.b6 Kd6 18.b7!
Kc7 19.Ke2 Sb2 20.Ke3 Kxb7 21.f4 Kc6
22.f5! e5 23.f6 Sc4+ 24.Ke4 Kd6 25.f7
Draw

☆ d1=Qが見えているので、とにかくチェックを掛けるしかない局面です。1.Rh5+ としてみると、1... Kc4? 2.Rh4+ Kb3 3.Rd4 は白勝ち、1...Kc6 2.b5+ Kd7 3.Rh7+ は作意同様なので、意外に局面は絞られていることに気づきます。

☆ 作意は 1...Kd6 2.Be5+ Kc6 3.b5+ Kb6 4.Bd4+ Kb7 と進んで、とりあえず黒Kの脱出を抑えることに成功します。

☆ 5.Rh7+ に対して、黒は Kc8-d7-e8-f7 と右辺を目指しますが、9.Rh7+ に対して 9...Kg6 は、10.Rg7+ Kh5 11.Rh7+ でドローとなるので、黒は結局 d6 の地点を目指します。

☆ 13...Kd6! となってルークによるチェックは途切れますが、14.Be5+! Kxe5 15.Rd7 として、ようやく d1 の地点をカバーし、以下、15...d1=Q 16.Rxd1 Sxd1 と進みます。

黒川：クイーンを作られないために、ひたすらチェック。この続きがあるのかどうかで自信がない。

☆ この予感の通り、ここからがこの作品の「第二幕」。17.b6 Kd6 18.b7! (18.Ke2?

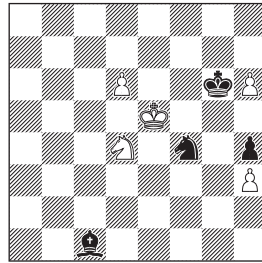
Sc3+ 19.Kd3 Sa4! は黒勝ち) Kc7 19.Ke2 Sb2 20.Ke3 (20.f4? Sc4 は黒勝ち) Kxb7 21.f4 Kc6 22.f5! (22.Ke4? Kd6 23.f5 e5 24.f6 Sa4 25.f7 Sc5+ は黒勝ち) e5 23.f6! (23.Ke4? Kd6 24.f6 Sa4 も黒勝ち) Sc4+ 24.Ke4 Kd6 25.f7 でようやくドローになりますが、ここまで計4回手順前後の震があります。

若島：Be5+ ~ Rd7 の手段を発見してほっと一息。以下もデリケートな手順が続く。

☆強豪のお二人も、そのデリケートな後半部分の手順前後で減点とさせていただきます。

[○ 0 △ 4 × 4]

E138 Pavel Arestov
Daniel Keith
(Russia, France)



Win (5+4)

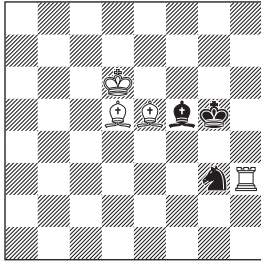
1.h7! Kxh7 2.d7 Sd3+ (2...Sg6+ 3.Kf5 Bg5! 4.Kxg5 Se5 5.d8=S! Win) 3.Kf5! Bg5! 4.Kxg5 Sc5 5.d8=B! Win

☆ 初手 1.d7? Sd3+ 2.Ke4 (2.K ~ Bg5=) Sc5+ はドローなので、1.h7! Kxh7 2.d7 の手順は必然です。ここで作意は2通りに分岐します。

☆ 2...Sg6+ に対しては、3.Kf5 (3.Kf6? Sf8! 4.d8=Q Bg5+ 5.Kxg5 Se6+! 6.Sxe6 はステイルメイト) と Bg5 を防ぎます。それでも黒は強引に、3...Bg5! 4.Kxg5 Sc5 としますが、5.d8=S! (5.d8=Q? Sf7+) がナイトフォーク回避のアンダープロモーションで白勝ちです。以下、5...Sd3 6.S8e6 Sf2 で黒Sを白ポーンと刺し違えることはできますが、黒hポーンが残った形は難しいですが白勝ちになります。

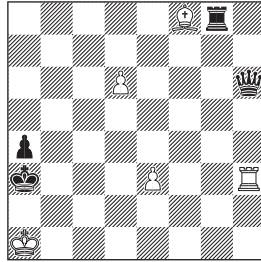
☆ もう一つの作意 2...Sd3+ にも、3.Kf5!

H1186 Pierre Tritten
C+ (France)



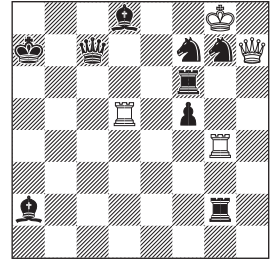
H#2* 3sols (4+3)

H1187 Reinhardt Fiebig
C+ (Germany)



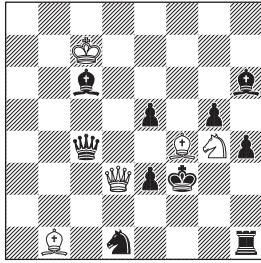
H#2 2sols (5+4)

H1188 Aleksandr Pankratjew
C+ (Russia)



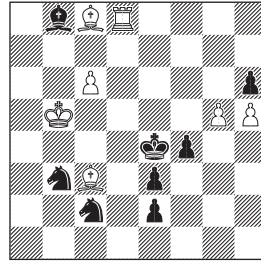
H#2 2sols (4+9)

H1189 Christer Jonsson
C+ (Sweden)



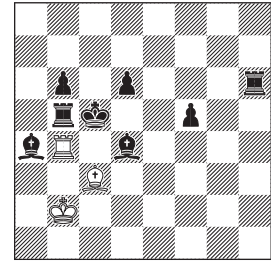
H#2 2sols (5+10)

H1190 Fadil Abdurahmanovic
C+ (Bosnia Hercegovina)



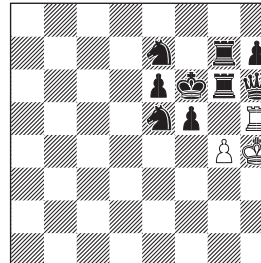
H#2 4sols (7+8)

Alexander Pankratjew
H1191 Ivan Antipin
C+ (Russia)



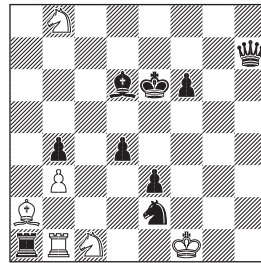
H#3 2sols (3+8)

Aleksandr Pankratjew
H1192 Evgeny Gavryliv
C+ (Russia, Ukraine)



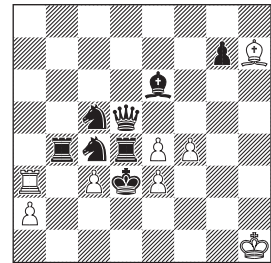
H#3 (3+9)
b) bSe7→h7

H1193 Christer Jonsson
C+ (Sweden)



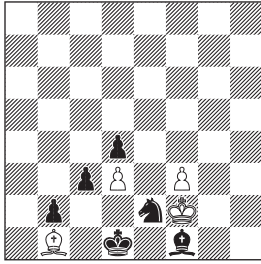
H#3 2sols (6+9)

H1194 Christopher J.A. Jones
C+ (Great Britain)



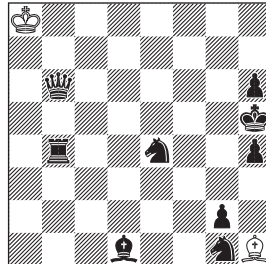
H#3 (8+8)
b) wPe3→g3

H1195 Stefan Milewski
C+ (Poland)



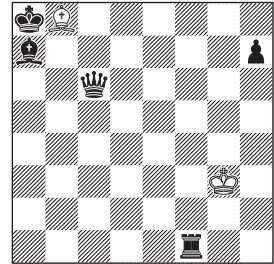
H#5 (4+6)

H1196 Fadil Abdurahmanovic
C+ (Bosnia Hercegovina)



H#5 (2+9)

H1197 Torsten Linß
C+ (Germany)



H#8 (2+5)

Helpmate

Helpmate Editor

Masato Yoshii [吉井雅人]

Judge 2020

Zivko Janevski (North Macedonia)

○今号は 12 問の出題です。解答者として新しく参加頂いた方が増えて嬉しい限りです。どうもありがとうございます。H1186 は SetPlay と 3 解の合計 4 解を記述ください。

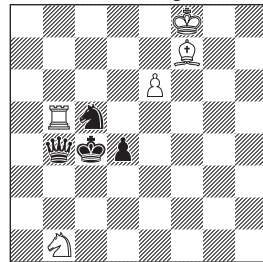
●は藤原俊雅さんの解説、○は吉井のコメントです。

●今回も補佐を務めています。よろしくお願いします。

This issue has 12 compositions. TF means the comment of Toshimasa Fujiwara. MY means the comment of Masato Yoshii.

Issue 89 (H1138-1159)

H1138 Fadil Abdurahmanovic
C+ (Bosnia Hercegovina)



H#2* (5+4)

SetPlay: 1...Ra5 2.Sd3+ e7#

1.Qc3 Bg6 2.Sb3 Sa3#

九尾：意外にも Ra5 が見えませんでした。

●セット・本手順共に、Q のラインを止めるのが肝要。

及川：トップバッターに相応しい易作。

則内：A prudent key and a vivid set.

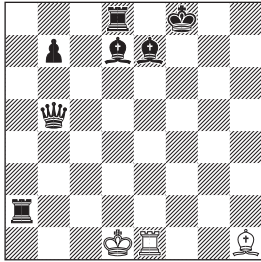
太刀岡：白 K によってうまく順番が制御されている。

小林：何故か Set の方が時間がかかった。

○ SetPlay と H#2 でバッテリーが変わってしまうところが面白いです。

MY：Destruction of batteries contradictory play in Setplay and real play.

H1139 Eligiusz Zimmer
C+ (Poland)



H#2 (3+7)

b) bKf8→a8

a) 1.Ke8 Be4 2.Bf8 Bg6#

b) 1.Rb8 Re4 2.b6 Ra4#

星野: RとQの余詰消しがいま一つさえない。

九尾: 分かりやすい両王手物。

及川: ストレートな両王手。

塩見: もっとシンプルにできそうだが、余詰を消すためには仕方ないか。

則内: Long range shots of double check.

太刀岡: 両王手のツイン。駒はこんなに必要なのだろうか。

黒川: シンプルな狙い。b5のクイーンがやや重たい印象。

小林: 両王手。a)の方が見易い。

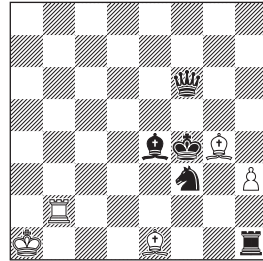
●我々の求めている掛け算の表現には達していませんね。

○狙いダブルチェックメイトですが、狙いに比して配置は大げさだと思います。

TF: Make batteries in two solutions.

MY: Simple double check mate though setting is heavy.

H1140 Rainer Kuhn
C+ (Germany)



H#2 2sols (5+5)

1.Se5 Rg2 2.Rh2 Bd2#

1.Qg5 Rb3 2.Sg1 Bg3#

九尾: Rf2を出そうと思って少考。

及川: 白 Be1 が動けるように協力。黒 S の動きと白 B の王手 (接触と透かし) の対比が上手いですね。

●よく見るパターンですが、最小限に纏まっています。

則内: Make efforts to shut up black R.

太刀岡: S と Q、bR の配置が美しい。

黒川: 初形で逃げ道が多いので塞いでいくと自然に解ける。

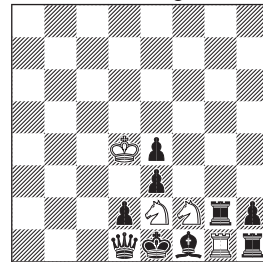
小林: Rh2 がかわいい。

○アンピン、アンピン、というところはわかりやすいです。

TF: Each of the solutions has double unpin. Setting is economical.

MY: Pleasant unpin mates.

H1141 Fadil Abdurahmanovic
C+ (Bosnia Hercegovina)



H#2 3sols (4+9)

1.Kxf2 Sf4 2.Kxg1 Sh3#
 1.Rxf2 Rg3 2.Kxe2 Rxe3#
 1.hxg1=S Kxe4 2.Sxe2 Sd3#

星野:3 解目、Kxe4 は中々思いつかなかった。

九尾: 難問。Kd1 も出るかと思いました。

及川: やさしい密集形。

塩見: 3 つともかっこいいメイト。

太刀岡: 清涼詰 3 種、素晴らしい!

黒川: 黒のディフェンスが強いがいずれも白を 2 枚取らせてしまうのは上手い。

小林: 一見、3 種成とおもいきや、2 駒取り x3 でした。流石!!

●こういうことを易しく表現する技術が素晴らしい。

内田: コレはスゴイ

則内: Survived one in 3 can make a goal.

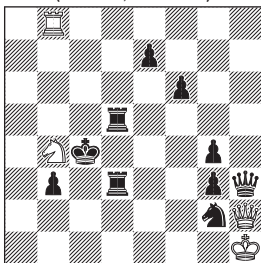
若島 (Tadashi): Mate by 3 different White minimal. A good fun.

○さすがの作品で、高評価が集まりました。サイクリック Zilahi かつ清涼詰。思わず笑みがおぼれる Abdurahmanovic さんならではの作品だと思います。

TF: It's a fine idea. Thanks for showing me how to do it.

MY: Cyclic Zilahi from the interesting setting. Very enjoyable problem by our regular contributor!

Aleksandr Pankratjev
H1142 Evgeny Gavryliv
 C+ (Russia, Ukraine)

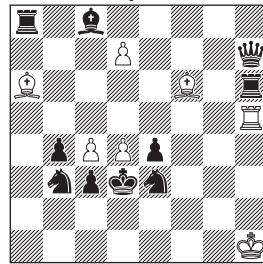


H#2 4sols (4+10)

1.Qh8 Qxh8 2.R5d4 Qc8#
 1.Qh7 Qxh7 2.Rc5 Qxd3#
 1.Qh6 Qxh6 2.R3d4 Qc1#
 1.Qh5 Qxh5 2.Rc3 Qxd5#

○ 88 号の H1126 で出題済みでした。申し訳ありません。解いて頂いた方には申し訳ありませんが、H1142 は欠番とさせていただきます。

Rolf Wiehagen
H1143 Christer Jonsson
 C+ (Germany, Sweden)



H#2 (7+10)
 b) bPc3⇌bKd3

a) 1.Rxa6 dxc8=B 2.Kxc4 Bxa6#
 b) 1.Rxf6 d8=B 2.Kxd4 Bxf6#

九尾: やや無理作りの印象。

及川: 白 B のフェニックスのツイン。上手い。

則内: Faithful Bs are reborn as before.

太刀岡: フェニックステーマというやつですね。

黒川: 狙いが見えやすい。

小林: 解きにくい。B 成+フェニックス

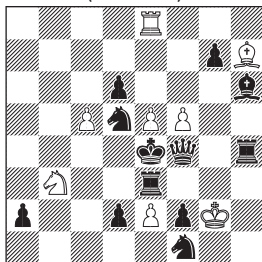
●元の位置に再生するタイプのフェニックスなので、テーマは伝わりやすかったかと。

○ B 成とフェニックスです。一つが解ければもう一つは見えやすいです。

TF: It's clear for solvers to understand what theme is.

MY: Promotion to B and Phoenix. Solutions have good harmony.

H1144 Abdelaziz Onkoud
C+ (Morocco)



H#2 4sols (8+12)

- 1.a1=B Kxf1 2.Bd4 Sxd2#
1.d1=R cxd6 2.Rd4 Sc5#
1.Qxe5 Bg6 2.Bf4 f6#
1.Qxf5 Re6 2.Rf4 exd6#

星野：Pの2解とQの2解で2倍楽しめるというより、散漫になった感じ。

九尾：毛色の異なる2解セット。2作がくつついているみたい。

及川：黒の成駒が同地点に行く2手順+開き王手のピンメイト2手順。駒数は多いが上手く組み立てられていて、面白かったです。

太刀岡：2+2の構造。開き王手のほうが難しかった。

黒川：2solのヘルプを2つ詰め込んだような手順。

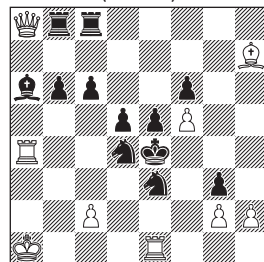
則内：Q for pins, or promotions for block.

若島 (Tadashi) : HOTF. Is bPg7 needed?
○ 2sol x 2 の HOTF(Helpmate of the future) です。2解づつのコントラストは明確ですので見かけほど解きにくくはないかもしれませぬ。

MY : HTOF. Exchange of functions. Zilahi.
● 初めAUWかと思いましたがHOTF。2作に分けるほうが良さそうですね。

TF : Exchange of functions.(wR/wB,bB/bR)

H1145 Eligiusz Zimmer
C+ (Poland)



H#2 2sols (9+12)

- 1.Be2 hgx3 2.Sexf5 Rxe2#
1.Bc4 Qxc6 2.Sdx6 Rxc4#

星野：Qをかこっている一段の意味が不明。
九尾：Qが、なぜBじゃないのか、少し考えてしまいました。そのあたりの感覚がまだ弱いです。

及川：ピンメイト2手順。Bc4の手順の発見に少し手間取りました。

● Qを使う手順は3重ピンメイトになります。

TF : Double & triple pinmate, but so symmetric.

則内 : Aggressive to make two-way pins.
太刀岡 : 駒取りのタイミングまで統一しているのが良い。

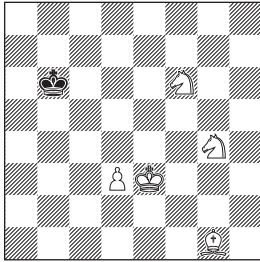
黒川 : 詰上がりが見えずに苦戦。h7のビシヨップの意味を考えるのが解図への近道か。
若島 : QがBの働きしなくて、しかも1解でしか働かない。

小林 : えっこれが正解なの？ 大きな配置の割にはかわいい作意

○ 舞台装置は大きいですが、狙いはシンプルでした。

MY : The theme is clear though the setting is heavy.

H1146 Oikawa Hironori
C+ (及川弘典)



H#2.5 2sols (5+1)

1...Bh2 2.Kc5 Kd2 3.Kd4 Bg1#
1...Sf2 2.Kc5 Kd2 3.Kd4 S2g4#

星野：2 解目別の詰め場所を探していたら、同じ筋だった。逆を突かれた感じ。

九尾：Bh2が見えず、諦めかけました。

太刀岡：局面が戻る感覚が楽しい。

則内：Switch-backs produce similar ends.

若島：黒の手がまったく同じ。

黒川：まさか同じ詰上がりとは。

小林：2 解目にはもう少し曲をつけたかった。

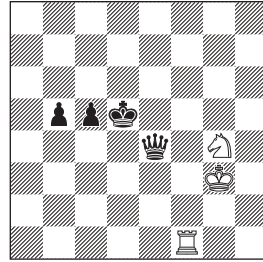
内田：手順は違うのに詰め上がりと同じマジック

● K を動かす 6 手がダブルのは残念ですが、同型のメイトという発想は興味深いと思います。

○黒の手順が全く同じで、詰め上がりも同じという不思議な作品。B と S のスイッチバック付き。

MY：Black move and final position is same with solutions. Switchback of B and S.

H1147 Achiya Ryuu
C+ (阿知矢龍)



H#2.5 2sols (3+4)

1...Rf3 2.Qb4 Rd3+ 3.Kc4 Se5#
1...Se5 2.Qg6+ Kf4 3.Qe6 Rd1#

星野：ほとんどの駒が両方の階で効率よく働いているのが良い。

及川：綺麗な初形。役割交換も綺麗に表現されています。

太刀岡：少ない駒でうまく捕まっている。

●対照性というよりも纏まりの良さを評価すべき作品。

則内：Enjoyable twins, especially Rd1#.

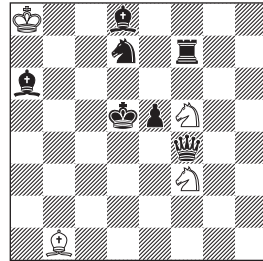
黒川：b5 のポーンを使う手順は見えやすいが、白キングを使う手順はどこで詰むのか見えにくい。

小林：b5 のポーンをなんとかしたいが...

○きれいな初形から R と S の役割交換。

MY：Exchange of function from the economical setting.

H1148 Jozef Lozek
C+ (Slovakia)



H#2.5 (4+7)

b) wSf3→h6

- a) 1...S3d4 2.Bf6 Sb5 3.Ke6 Sc7#
 b) 1...Bc2 2.Bd3 Ba4 3.Ke4 Bc6#

星野：各々3手かけて迂回する手が、中々
 見つけにくかった。

及川：見事な三段跳ね。

則内：Whites patrol the upper and lower.

太刀岡：aが難しかった。

若島 (Tadashi)：White single combat.

小林：詰めにくかった。

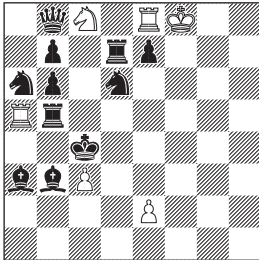
● b)の詰り方で、上辺のblack pieceが取り
 残されるのがもったいない点。

○それぞれの解でSだけ、Bだけが動くところ
 が面白いです。

TF：Self-block by bB.

MY：Each solution mates with a piece.

H1149Fadil Abdurahmanovic
 C+ (Bosnia Hercegovina)



H#2.5 2sols (6+11)

- 1...Sxe7 2.Rb4 Sd5 3.Sc8 Re4#
 1...Rxe7 2.Rc5 Re3 3.Se8 Sxb6#

● QとBがwKを睨んでいるのに要注意。
 R/SでPe7を取ると、取った方の駒がhalf-
 pinされ、残った方はpinされます。ヘルプ
 らしい精密な作り。

星野：Qをどこかそうと試みたが、当然遮断する
 のが筋。

及川：黒e7を取る駒の違い。上手く構築さ
 れています。

則内：Well prepared not to do wK harm.

太刀岡：黒の手の制御が緻密。

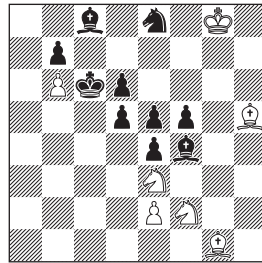
若島 (Tadashi)：Superb half-pin, dual
 avoidance. The best problem in this
 batch.

○緻密に構成されたアンピンの連続です。玄
 人から高評価。

TF：A precision work. Solvers are very
 impressed.

MY：All black moves are unpinning of
 white piece. Well constructed work by
 the prominent composer.

Rolf Wiehagen
H1150 Christer Jonsson
 C+ (Germany, Sweden)



H#2.5 2sols (7+10)

- 1...Sxd5 2.Kxd5 Sxe4 3.Kxe4 Bf3#
 1...Sxf5 2.Bxf5 Sxe4 3.Bxe4 Bxe8#

星野：2枚の邪魔なSの採られ方が、なんと
 も気持ち良い。

九尾：壁崩し。

及川：白Sを捨てる2手順。黒Kと白Bの
 動きの対比がいいですね。

則内：I always love such a funny one.

太刀岡：たくさん取れて楽しい。

黒川：ポーンの塊をはがすのが楽しい。

若島 (Tadashi)：It's a pity that 2..Sxe4
 is repeated.

小林：これは明解。2つのSの取りまくり。

内田：ユーモラスな手順

●ここまでするなら、Bf3も駒取りにしてし

まって良かったかもしれません。

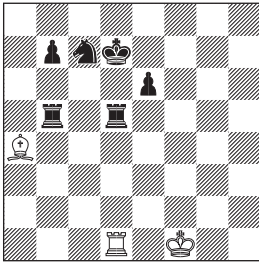
○スパスバ切って爽快感があります。コントラストも明快。

TF : Nine active sacrifices are humorous.

MY : Comfortable active sacrifices.

Solutions have good harmony. Pleasant original.

Alexander Pankratjew
H1151 Michael Gershinsky
C+ (Russia, Ukraine)



H#3 2sols (3+6)

1.Kc6 Bb3 2.Rdc5 Bxe6 3.Rb6 Bd7#

1.Kd6 Rc1 2.Re5 Rxc7 3.Rbc5 Rd7#

星野 : 気を付けるのはチェックだけだが、シンプルで楽しめる。

九尾 : Rc1+Bc2 の形を狙うのは失敗でした。

及川 : 見事な B と R の転回。

則内 : Easy solving is a virtue for us.

太刀岡 : 棋譜にすると対称性の綺麗さが際立つ。

若島 (Tadashi) : Mating moves to the same square d7.

小林 : 狙いが明解で解いて楽しい作。

内田 : 最終手が揃い好印象

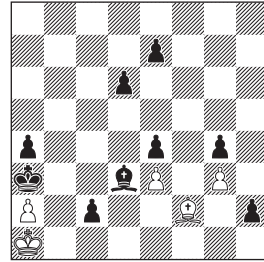
● 2 手目駒取りから d7 への着手でメイト。器用に出来ています。

○簡素な初形から解のコントラストがきれいです。

TF : Good contrast from a few pieces. I like this original.

MY : Solutions have good harmony from economical setting. The square of final move is same.

Mirko Degenkolbe
H1152 Rolf Wiehagen
C+ (Germany)



H#3 2sols (5+9)

1.c1=B Bg1 2.Bxe3 Bxe3 3.d5 Bc5#

1.h1=S Be1 2.Sxg3 Bxg3 3.e6 Bxd6#

星野 : 初形で、お前は既に死んでおる (詰上りが見え見え)。

九尾 : B を世に出すお手伝い。

則内 : Back steps for Tempo are nice.

太刀岡 : 易しくて、ひたすら楽しい。

● 明快なテンポ・ムーヴが好評でした。

及川 : 邪魔駒取らせ。面白い。

黒川 : ピシヨップの強引な脱出。

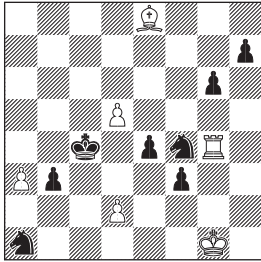
小林 : アンダー成 2 つ。

○アンダープロモーション、成り分け、Tempo で楽しい作品だと思います。

TF : These tempo moves are popular among solvers.

MY : Black under-promotion, for annihilation of white mass with sacrifice, unguard of white mating square at B3. White soloist, with tempo at W1 and echo model mate.

H1153 Christopher J.A. Jones
C+ (Great Britain)



H#3 (6+8)
b) bPb3→c3

- a) 1.Sc2 Bc6 2.Sb4 axb4 3.Sd3 Rxe4#
b) 1.Sxd5 Rg5 2.Se3 dxe3 3.Sb3 Bb5#

星野：P一つ動くだけで、駒の利きが大きく変わる

及川：黒Sの使い方が肝。aの詰み形はすぐ見えたが、bの方はなかなか見えず苦戦しました。

則内：Thoughtful with an unique sense.

太刀岡：Sがよく動く作品は難しい。

●Sを2手かけてPに取らせ、残ったSでセルフブロックします。右上の2枚のPだけが惜しいところ。

TF：One bS is captured, and another is used for self-block.

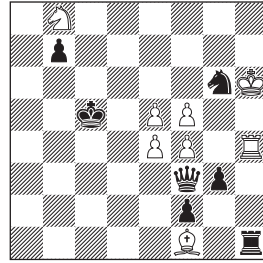
若島 (Tadashi)：Capture by wP as expected from this author.

小林：bSハネ、wPの取り込み、BとRの役割交換が見せ場。

○作者名から取りがヒントになります。役割交換は見事。

MY：Exchange of functions and Chumakov theme by our regular contributor. Complete harmony between solutions.

H1154 Rolf Wiehagen
C+ (Germany, Sweden)
Christer Jonsson



H#3 2sols (8+7)

- 1.Sxf4 Bc4 2.Sd5 exd5 3.b6 Sa6#
1.Qxe4 Bg2 2.Qxe5 fxe5 3.b5 Sd7#

星野：ひたすら4段目のPを消してRを世に出す。

及川：白Pと黒Q・黒Sの役割交換が上手く実現されていると思います。d5地点を押さえる白Bの位置の対比もいいですね。

太刀岡：Pの動きの対比が凄い。

則内：Blow away pawns to get refreshed.

小林：駒取で道を通す。

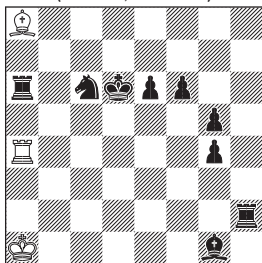
●白のBとSの動きに分かりやすい対照性あり。緊張感のある詰りです。

○H1150と似た感触があります。役割交換とサクリファイス。

TF：Contrasting of moves by white pieces is nice.

MY：Another comfortable active sacrifices by top composers. Solutions have good harmony.

Alexander Pankratjev
H1155 Michael Gershinsky
 C+ (Russia, Ukraine)



H#3.5 2sols (3+9)

1...Kb1 2.Ke5 Rxc4 3.Kf5 Rh4 4.Se5
 Be4#
 1...Bb7 2.Ra5 Bc8 3.Re5 Ra7 4.Bc5
 Rd7#

及川：Kの動・不動の対比。不動の方が面白いかな。

則内：The way to Rd7# is hard to find.

太刀岡：2枚で詰ますのは大変。

黒川：4枚のポーンを使った解1つはわかるがもう1つはどこで詰むのかわからない。

●このタイプは2局分解くことになります。

若島：1..Bxc6?だと2.Ra5 Bb5のときに3.Re5?とは渡れないですね。

●なるほどですが、それが狙いなのかはよく分かりません。

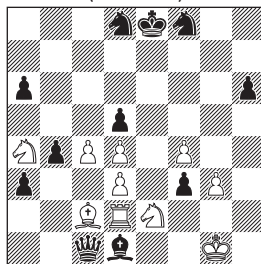
小林：なんとなく地味

○テーマの対比が明確ではないのですが、及川さんのコメントにあるようにKの動・不動でしょうか。1解が見つかったても、もう一つを見つけるのが難しいです。

TF：Model mate.

MY：bK moves a lot in a solutions, while bK does not move in the other solution.

H1156 Abdelaziz Onkoud
 C+ (Morocco)



H#3.5 2sols (10+11)

1...Sec3 2.Qxc2 Se4 3.Qxa4 Re2 4.Qd7
 Sd6#
 1...Sac3 2.Qxd2 Sb5 3.Qxe2 Ba4 4.Qe7
 Sd6#

星野：最後まで考えさせられた。Qxf4と外に出たくなる所、Qxe2とじつとどまるのがにくい。

及川：鮮やかな両王手のジラヒ2手順。お見事！

則内：Excellent with Zilahi of batteries.

小林：Qの駒取りと両王手と。

●大量のPやwKの配置により、bQはwhite pieceを2枚も取ることを余儀なくされます。意味付けはセルフブロック。

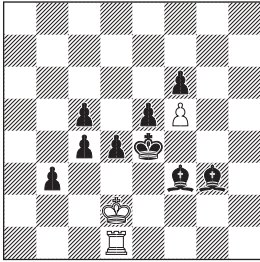
○役割変換とZilahi。コントラストもよく、解後感も良いです。

TF：bQ has to pick two white pieces. An interesting composition.

MY：Exchange of function and Zilahi. Attractive mates and solutions have good harmony.

Ioannis Kalkavouras
Kostas Prentos

H1157 Theodoros Giakatis
C+ (Greece, USA, Greece)



H#4.5 (3+9)

1...Kc1 2.Ke3 Rxd4 3.Bc6 Rd1 4.Ke4
Kd2 5.Kd5 Ke3#

星野：完璧！スマートな表現が際立つ。

及川：洗練された手順。

黒川：ポーンを動かさずに除去してしまうのが意外だった。

則内：Switchbacks by white are impressive.

若島 (Tadashi)：Is bBf3 → g2 possible?

小林：駒の入れ替え、白のやれる手は少ないので易しい。

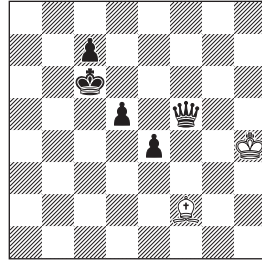
●4手指すと3枚が原位置に戻ります。若島さんの指摘は、2手目のbKの移動先の候補を増やしたいという意味でしょうか。

○一旦KをかわしてPを取りまた遮ってその間にBは一步一步のBristol。SwitchBackやKlasincも盛り込まれ面白い作品だと思います。

TF：Triple switchback(wK,wR,bK)is technical.

MY：Klasinc with Bristol effect between the bBf3 and bKe4. Indian with switchbacks of both the wK and wR. Very well constructed collaboration.

H1158 Zlatko Mihajloski
C+ (North Macedonia)



H#6 (2+5)

1.Qc8 Be1 2.Kc5 Kg3 3.Kd4 Kf2 4.c5
Ke2 5.c4 Bh4 6.Qc5 Bf6#

星野：散々悩んだ。Be1と指すと当然Bを左に使いたくなるのが人情で逆を突かれた。九尾：最後の形から考えて、不意にBe1が浮かんで解決。

及川：白Bを転回させるために行軍する白K。詰み形の予想が立てやすかったこともあり、すんなり解けました。

●詰上りを想定すると易しかったようです。

則内：Dynamic orbits of black Q and white B.

太刀岡：一見非効率なBe1が面白い。

黒川：退路の塞ぎ方を考えてみたらきれいに収まった

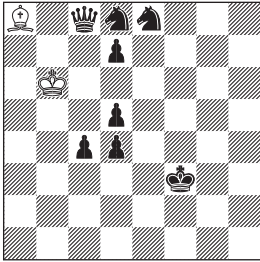
若島：最少の組み立て。

小林：初手Qc8！！は巧妙というしかない。○黒のBristol風味、白のKBの動き、少ない駒数から最後はIdeal Mateで素晴らしいと思います。この人の作品はBに特徴があります。

TF：Qc8 & Be1 are surprising for some solvers. Minimum component of mate is good.

MY：Bristol of black P,K,and Q and anti Bristol white B and K. Miniature with Ideal mate. Well constructed beautiful original.

H1159 Zlatko Mihajloski
C+ (North Macedonia)



H#6.5 (2+8)

1...Bc6 2.Sd6 Kc5 3.Se6+ Kxd5 4.Qh8
Bxd7 5.Qe5+ Kc6 6.Ke4 Kb6 7.Kd5
Bc6#

星野：Qを3手でe5に持ってくるには2枚のSが邪魔なのだが、d6はPだと思って手こずった。

駒井：d6をPで埋めると思い込んで苦戦。

九尾：Qe5をどう作るのが問題。Qh8は感動の一手でした。

●wBでPd5を払うと黒の手が足りません。Kのレントラウフはもちろん、手順前後の利かない序の構成にも目をみはるものがあります。

及川：初手と最終手が同一着手&還元玉。バズルっぽさもあって面白かったです。

則内：Sensitive moves before the climax of Q.

黒川：絶妙な順番で塞いでいく。これで限定されているのが不思議。初手と最終手と同じなもの良い。

若島：これも最少の組み立てなのですね。

○前作と同じ作者のこちらはKのレントラウフとBのSwitchback。こちらも最後はIdeal Mateで、素晴らしい一言です。

TF：First & last white moves are same.

A skillful composer.

MY：Kozakin, Knist, Rundlauf of wK, and Ideal mate. Another enjoyable beautiful

work by our regular contributor.

○総評など

小林：今回は何故か長いものが取り組み易く、先に解けた。

○意外に長いものの方が解きやすい場合もありますよね。さすがの満点でした。

太刀岡：初解答です。よろしくお願いします。

○ありがとうございます。初解答とは思えない高得点でした。また、的確な短評をありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

及川：なんとかか全作解答。勉強になりました。

○全問正解お見事でした！投稿の方もお待ちしています。

●今回は好作が多かったですね。次回も楽しみ。

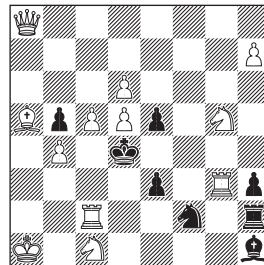
○次回も解答と短評をどうぞよろしくお願い致します。

WCCT-11 課題(2)

Section B: Threemovers

課題：黒の2手目の変化のchanged mates.

B Eeltje Visserman The Problemsit 1955 (v)



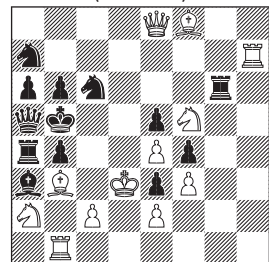
#3 (12+8)

1.Bb6! waiting

1...Bg2 2.Qa2 Sd3/Se4 3.Se2/Se6#

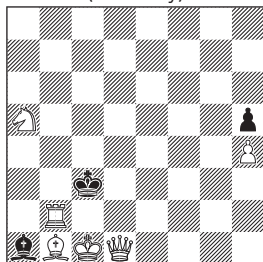
1...Rg2 2.Qg8 Sd3/Se4 3.Sb3/Sf3#

S257 Ovidiu Crăciun
C+ (Romania)



S#4 (12+13)

S258 Mirko Degenkolbe
C+ (Germany)



S#10 (6+3)

Selfmate

Selfmate Editor

Kohey Yamada (山田康平)

Judge 2018-2020

Diyan Kostadinov (Bulgaria)

☆今回は2作。投稿は依然として少なく、実質1作or2作となりそう。

☆ THIS SECTION NEEDS YOUR ORIGINALS!

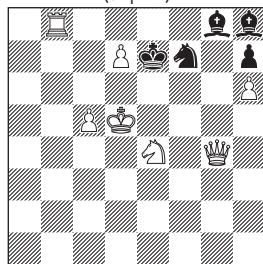
☆ S257は黒番ならいきなりチェックされる手がありますが、それはSetPlayです(ただし3手)。

☆ S258もSetPlayで、こちらは黒番なら1手詰。どうやって1手パスするか?という問題です。

Issue 88 (S251-253)

☆今回は解答者10名と2桁になり、客寄せ効果はあったようです。

S251 Tired Boy
C+ (Japan)



S#2 (7+5)

1.Qg7!(-)
1...Kxd7 2.Qxf7+ Bxf7#
1...Bxg7 2.d8=Q+ Sxd8#

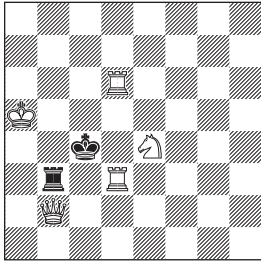
☆初手1.Qg7が、黒と白の両方のキングにフライトを与えている、というのが狙い。
2.Kxd7を見落とした解が若干名。
黒川：ナイトをピンするよりないので考えやすい。

太刀岡：お手軽フェニックス。

星野：h6Pがないと、3手になるのかなあ？

☆3手なら初手がスレットありになります。非限定ですが。

S252 Tired Boy
C+ (Japan)



S#3 (5+2)
b)Rd3→d2

- a) 1.Rc3+ Rxc3 2.Sd2+ Kc5 3.Qa3+ Rxa3#
b) 1.Rc2+ Rc3 2.Ka4 Rxc2 3.Qa2+ Rxa2#

黒川：詰上がりが見えやすい。

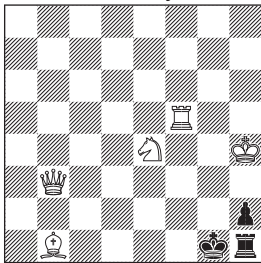
太刀岡：K 位置が 1 路ずれるのが面白い。

星野：b)2.Ka4 の waiting がアクセント。

塩見：これまでセルフメイトを解答したことはないと思いますが、簡素形だったので考えてみました。

☆カメレオンエコーですが、複数解ならともかく Twin なのがお手軽設計と言えます。

S253 Stephan Dietrich
C+ (Germany)



S#7 (5+3)

- 1.Bd3 Kg2 2.Qb2+ Kg1 3.Sd2 Kg2
4.Sf1+ Kg1 5.Qd4+ Kg2 6.Rg7+ Kf3
7.Sxh2+ Rxh2#

☆長手数の難問でしたが、3名の正解者がありました。

☆隅の黒Rをコントロールするのは難しいので、最終手は Rxh2 のはず。そうすると、白Kは Kh3 か Kh4 か。Kh4 なら黒Kは f3 か f4 か。そこで・・・

黒川：初手のヒントが役に立った。ナイトは g4 から回るものとばかり思ってしまった。

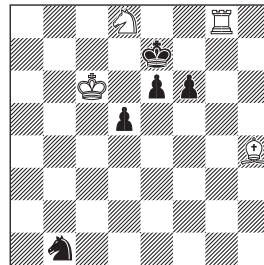
太刀岡：難しかった。bKf4 の詰上りにはどうしても手が足りず、延々と考えた。Q の動きの限定が上手い。

WCCT-11 課題 (3)

Section C: Moremovers

課題：try で黒の defense A が弱く、メイトになるが、その前に preliminary move(s) の B をしておく、その後で defense A が強くなり、詰まない。本手順では、白はこの順を回避／打開する。

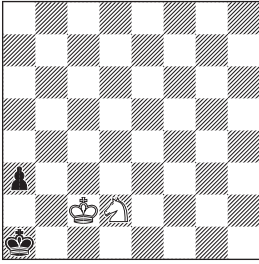
C Dieter Werner
Stern 1996



#5v (4+5)

- 1.Be1?
1...f5 2.Bh4#
but 1...Sc3! 2.Bxc3 f5!
1.Bg3! (foreplan) e5 2.Be1 Sc3 3.Bxc3 f5
4.Be1 --- 5.Bh4#

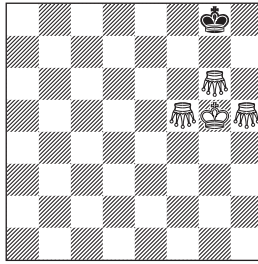
Vlaicu Crisan
F1116 Eric Huber
 C+ (Romania)



See Text!

(2+2)

F1117 Stephan Dietrich
 C+ (Germany)

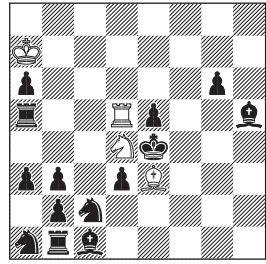


#5

(4+1)

Grasshoppers f5 g6 h5
 Annan

F1118 Pierre Tritten
 C+ (France)

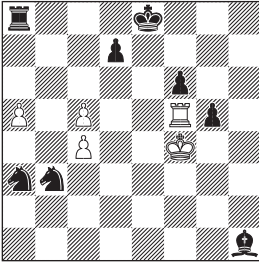


H#2

(4+14)

b) bPb2→a4 c) bPd3→f4
 Take&Make

Igor Vereshchagin
F1119 Andrey Frolikin
 (Russia, Ukraine)

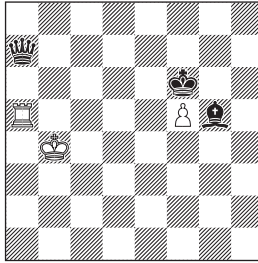


H#2.5

(5+8)

Point Reflection

F1120 Eligiusz Zimmer
 C+ (Poland)

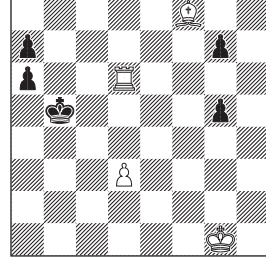


H#3

(3+3)

b) H=3

F1121 Eligiusz Zimmer
 C+ (Poland)

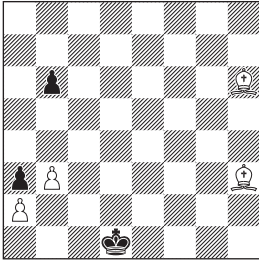


H#3

(4+5)

b) H=3

F1122 Eligiusz Zimmer
 C+ (Poland)

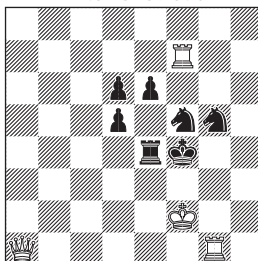


H#3

(4+3)

b/c/d) bK→d8/h5/h4
 Antipodean Circe

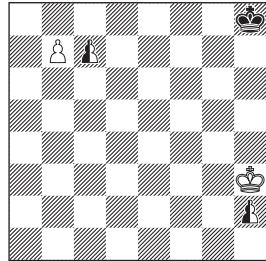
Sébastien Luce
F1123 (France)
 C+ After S. Šaletić



H=2 2 Sols

(4+7)

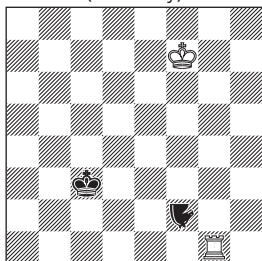
F1124 Eric Huber
 C+ (Romania)



H=3 2 Sols

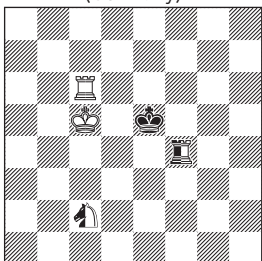
(2+1+2)

F1125 Stephan Dietrich
C+ (Germany)



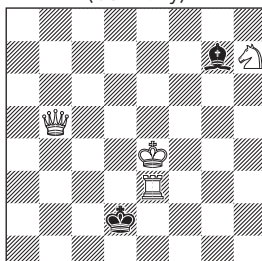
HS#2 2 Sols
Nightrider f2
Make&Take (2+2)

F1126 Stephan Dietrich
C+ (Germany)



HS#3.5 2 Sols
Köko (2+1+2)
Neutral Rf4 Sc2

F1127 Torsten Linß
C+ (Germany)



HS#8 (4+2)

Fairy

Fairy Editor

Vlaicu Crisan (Romania)

Judges 2020

Geoff Foster (Australia)

Thanks to the prompt answer to my previous appeal, I am able to provide 12 originals this time, but my stock is completely empty now. Composers, please submit your fairies to *Problem Paradise!* We wish a warm welcome to IGM Torsten Linß in our pages.

We start with a Wenigsteiner featuring the **Regency** fairy condition in all the twins. The definition of Regency is: **if a side is not in check, it can also transfer the royal property to a piece of the same colour or neutral**. This transfer counts for a move. In **F1116**, twin a) is #2 Regency. In twin b) replace the black Pawn a3 with a neutral Pawn for a #4 Regency. Finally, twin c) has the same position as twin a), but the stipulation becomes HS+2 2 Sols Regency Messigny. The swapping of Kings can be done regardless the King has the royal property or not. **[Editor: Once again. F1116 a) #2 Regency. b) bPa3 → nPa3, #4 Regency. c) the same**

position as a), HS+2 2 sols, Regency & Messigny.] Keep in mind that under Annan rules the wGg6 can't jump in **F1117**.

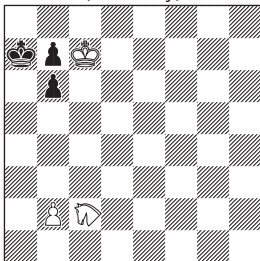
Pierre shows a very ambitious pattern in his sumptuous **F1118** using his pet condition Take&Make. Which was the last move in **F1119**? Please note the authors assume that in Point Reflection a piece which is reflected by a pawn can capture en passant (HC+ by Jacobi). Eligiusz is back with three light and charming works, which really need no hints to be solved and appreciated. Sébastien writes his **F1123** was inspired by Slobodan's **F1043** – same theme, with no twins and in a Meredith setting. Eric's **F1124** brings something new – can you discover the connection between the solutions? Our second Wenigsteiner in this issue features the new condition Make&Take: to capture, a piece must first make a non-capturing move as if it were of the same nature and colour as the piece to be captured, and then capture by resuming its own nature and colour. A piece on the initial square of the opposing King has the power to castle. Let's suppose in **F1125** White has a Bh2 instead of Rg1. Then 1.Be5+ can't be parried by a King move, so Black would be forced to play 1...Nf2-g1xe5# Mate,

because the white King has no place where to hide! In **F1126** the mate is given by the black King placed under a contact with the white King – typical for Köko. Don't be afraid by the length of **F1127**: you will soon discover that after shifting the Kings on the right (distant) squares, an active sacrifice of the white Queen will instantly force the mate. The crystal clear logic in an economic setting is the trademark of the German composer.

Please enjoy the solving experience and send your comments. As you will see from the solutions, we all have to learn and adapt a lot to the solvers' perspectives!

Issue 89 (F1086-1103)

F1086 Stephan Dietrich
C+ (Germany)

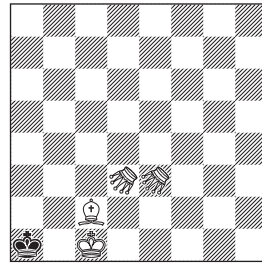


#7 (3+3)
Dragon c2

- 1.DRc4! Ka6 (1...Ka8 2.DR:b6#; 1...b5
- 2.DR:b5+ Ka8 3.DRb6#) 2.b4 b5 (2...Ka7
- 3.b5 Ka8 4.DR:b6#) 3.DRc5+ Ka7
- 4.DR:b7 Ka6 5.DRd6 Ka7 6.DR:b5+ Ka8
- 7.DRb6#

Tachioka: Dragon is a devastator.
Wakashima: The point is to avoid b7-b6.
Crisan: To see more examples of the Dragon in action, please check the award of the fairy section of Tetragon 2016-2017 (1st quarter) published in Sinfonie Scacchistiche 125.

F1087 Stephan Dietrich
C+ (Germany)

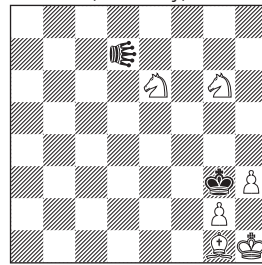


#7 (4+1)
Double Grasshopper d3 e3

- 1.Ba4! Ka2 2.Kc2 Ka1 (2...Ka3 3.Bb3#)
- 3.Bb5 Ka2 4.Bc4+ Ka1 (4...Ka3 5.Bb3#)
- 5.Kb3 Kb1 6.DGb2 Ka1 7.Bd3#

Tachioka: DG moved only once.
Wakashima: Hard to find the mating position with bK on a1.
Crisan: In spite of not moving too much, both DGs are actually fully used: DGd3 guards b4 and moves to b2, while DGe3 is twice the rear mating piece.

F1088 Stephan Dietrich
C+ (Germany)



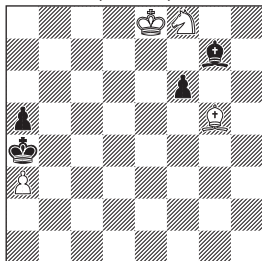
(*) S#4 2 Sols (6+2)
Equihopper d7

- (*) 1...EQf5#
- 1.Sd4! EQd1 2.Sc2 EQb3 3.Sb4 EQb5
 - 4.Sd5 EQf5#
 - 1.Sc7! EQb7 2.Sb5 EQb3 3.Sc3 EQd3
 - 4.Bh2+ Kf2#
- Sunouchi: 4.Bh2+ instead of 4.Se4+.
Cool.

Tachioka: Large Ring! I could find only 1 solution.

Crisan: That 4.Bh2+ is very tricky, indeed! Seems so easy once you've seen it... A typical solvers' problem and one to remember!

F1089 Pierre Tritten
C+ (France)



H#2 2 Sols (4+4)
Take&Make

1.f:g5-c1=S Se6 2.Sb3 S:g7-c3#
1.B:f8-e6 B:f6-f5 2.Bb3 Bd7#

Kurokawa: An excellent twin with beautiful wB+bB/wS+bS final positions.

Sunouchi: S-type and B-type of flight tours.

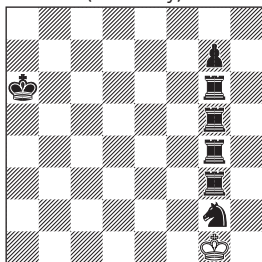
Tachioka: Simple and good contrast.

Wakashima: Super-light Zilahi.

Crisan: Reciprocal captures between the two pairs of pieces in an elegant construction.

The specific mates add a nice flavor.

F1090 Andreas Thoma
C+ (Germany)



H#5 Zero Position (1+7)
a) bPq2 b) a1=a8

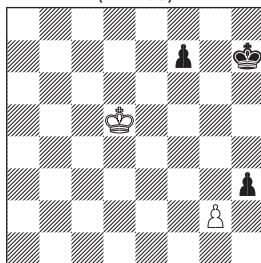
a) 1.Rh6 Kf2 2.Rh8 Ke3 3.g1=S Kd4 4.Se2+ Kc5 5.Re8+ Kb6#

b) 1.Sd1+ Kb3 2.Ra2 Kc4 3.Ra8 Kd5 4.Ree8 Ke6 5.Se3 Kf7#

Sunouchi: Tricky twins like House of stairs.

Crisan: In order to be successful, the white King's march needs a lot of background preparation. In a) bRh6 has to block both h8 and e8, while in the twin bRc2 has to block a8 and bRe2 has to block e8. Nice diversity!

F1091 Sébastien Luce
C+ (France)



H#9.5 (2+3)
Antipodean Circe
BlackMustCheck

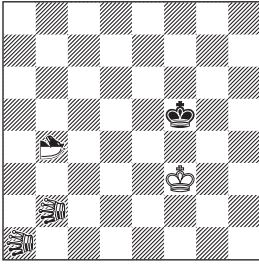
1...Ke4 2.f5+ K:f5(b1=R) 3.Rf1+ Kg5 4.Rf5+ Kh4 5.Rf4+ g4 6.R:g4(c8=Q)+ Kh5 7.Rg5+ K:g5(Rc1) 8.Rc5+ Kf6 9.Rc6+ Kf7 10.Rc7+ Q:h3(d7)#

Author: A minimal example, which shows a final interesting idea: the mating move Qxh3 provokes the "antipodean rebirth" of the Pawn h3 to d7, avoiding check by black Rook!

Wakashima: Spent a lot of time falling into a line 7.Rh4+? Kg5 8.Rg4+ Qxg4(Rc8) 9.Rg8+ Kf6 10.Rg6+ Kf7 11.Rg7+ Qxg7(Rc3)#. Then I figured out why bPh3 is needed ... and voilà!

Crisan: Only Tadashi managed to solve this! Who said kindergarten problems are easy to solve? I actually think these are quite difficult, in spite of apparent simplicity.

F1092 Vlaicu Crisan
Eric Huber
C+ (Romania)



HS#3.5 (1+1+3)

b)wKb5 c)nLa1→c4
d)nROb4→f6
Neutral Rose b4
Neutral Locust a1 b2
Parrain Circe Take&Make
(Dedicated to Kjell Widlert)

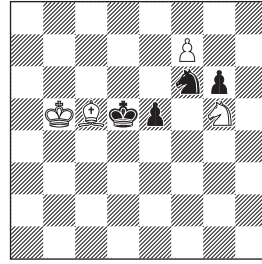
- a) 1...Ke6 2.Ke4 Kd6 3.nL:b4-g3+
K c 6 [+ n R O a 4] + 4 . n L : a 4 -
b7+Kc5[+nROa3]#
b) 1...Ke4 2.Kc5 nROc23.
nL:c2-b7+ Ke3[+nROc1]+ 4.nL:c1-
f2+Kd3[+nROb1]#
c) 1...nROd3 2.nL:d3-c1 Ke5[+nROc3]
3.nL:c3-h2+ Kd5[+nROb3]+ 4.nL:b3-c6+
Kd4[+nROb2]#
d) 1...K:f6-d5 2.Ke3[+nROe6] nROb3
3.nL:b3-g2+ Kc5[+nROa3]+4.nL:a3-b6+
Kc5-c4[+nROa2]#

Editor: Nobody could solve this.
Crisan: Sorry! We will definitely publish more solver friendly compositions from now on. We just hate reading "Nobody could solve this" - it is the worst nightmare of any composer! Our aim was to improve our setting according to the judge's pertinent observations, hence the dedication.

(*) 1...f8=Q 2.Se4 Qf3=
1.Se8 f:e8=R 2.e4 R:e4=

Kurokawa: Pins and captures.

F1093 Slobodan Šaletić
C+ (Serbia)



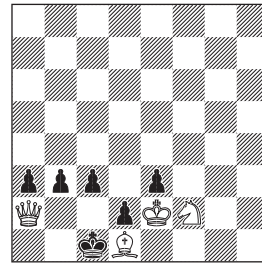
(*)H=2 (4+4)

Sunouchi: Pin or capture blacks with caution.

Tachioka: Pin or capture.

Crisan: 8 correct answers - the only absolute winner! The change of white promotion was quite easy to spot. What a relief after the previous problem...

F1094 Slobodan Šaletić
C+ (Serbia)



H=2 (4+6)

b) -bPc3

- a) 1.b2 Bc2 2.b1=S Sd1=
b) 1.b2 Q:a3 2.Kb1 Sd3=

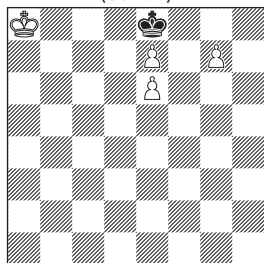
Kurokawa: 2.Kb1 is unexpected.

Sunouchi: Change seats in the compact room.

Tachioka: Sf2 must escape.

Crisan: The other successful entry with all the solvers scoring points! The help stalemates can provide quite some interesting effects as well.

F1095 Slobodan Šaletić
C+ (Serbia)



(*) H=3 (4+1)

(*) 1...g8=S=

1.K:e7 g8=Q 2.Kd6 e7 3.Kc7 Qe6=

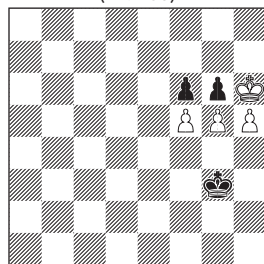
Kurokawa: A pawn move during 3 moves is hard to see.

Sunouchi: Run away to avoid terrible Q.

Tachioka: Q is strongest.

Crisan: An unexpected ideal mirror stalemate! Well done by all six who have seen it.

F1096 Sébastien Luce
C+ (France)



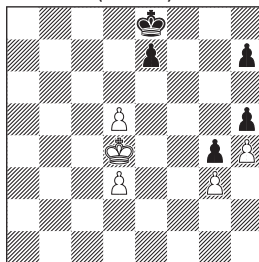
H==6.5 (4+3)
PWC

1...Kg7 2.Kf4 K:g6[g7] 3.Ke5 Kf7 4.Kd6 K:g7[f7] 5.Ke7 Kh6 6.Kf8 g6 7.Kg8 g7==

Editor: Nobody could solve this.

Crisan: Ouch, this hurts! Both I and Séb thought it will be obvious the bPg6 needs to be decoyed to f7 after which the final position can be easily discovered. Kind of Columbus' egg.

F1097 Sébastien Luce
C+ (France)



H=12 (5+5)

AntipodeanCirce

BlackMustCheck

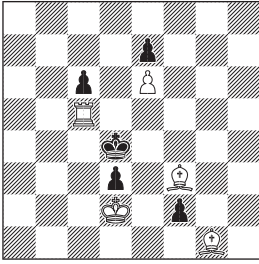
1.e5+ d:e6 ep(Ra1) 2.Ra4+ Ke5 3.Ra5+ Kf4 4.Ra4+ d4 5.R:d4(Bh8)+ B:d4(Rh8) 6.0-0+ Ke3 7.Rf3+ Ke2 8.Re3+ B:e3(Ra7) 9.Ra2+ Bd2 10.R:d2(Bh6)+ Ke3 11.Rd3+ Ke4 12.Rd4+ K:d4(Rh8)=

Author: First capture on e6 by white, provokes the "antipodean rebirth" (with promotion) in a1 to Rook (avoiding self-check). This Rook executes a switchback a4-a5-a4 to provokes this time the advance d2-d4. Two successive captures on this square has for effect to "project" black Rook to h8. Castling can follow! Then two new captures on e3 then d2 allow white Bishop to reach h6. Last capture on d4 provokes a new rebirth on h8 for black Rook with a complete closed white King Rundlauf d4 to d4 and black stalemate. The Valladao is realized with only Pawns at the beginning.

Wakashima: Your hint was so useful. The final position is obvious, but this is a good fun.

Crisan: Let's raise a challenge: who is able to create the next Valladao with only Pawns at the beginning, preferably in fewer moves?

F1098 Slobodan Šaletić
C+ (Serbia)



(*) SH#6 (5+5)

(*) 1...B:f2#

1.f:g1=R 2.Rg5 3.Rd5 4.Ke5 5.Kd6 6.Re5
Rxc6#

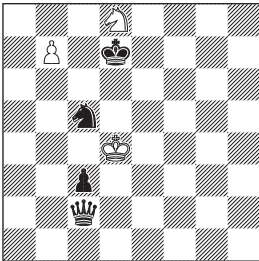
Kurokawa: Easy to solve once you find the final position.

Sunouchi: Ingenious moves attracts me well.

Tachioka: R in order to go to g5.

Crisan: Experienced solvers would first ask themselves what the pawns e6 and e7 are doing. Sometimes asking the right questions can lead to a faster discovery of the solution!

F1099 Slavko Radovanović
C+ (Serbia)



SH#8 (3+4)

1.Qf5 2.c2 3.c1=B 4.Bf4 5.Bc7 6.Kd6
7.Qc8 8.Sd7 bxc8=S#

Author: Ideal mate.

Kurokawa: The final position of bK is easy to spot, but the mating move is rather

difficult to find.

Kobayashi: The problem is how to use bSc5.

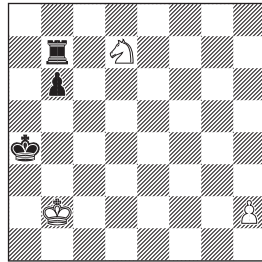
Sunouchi: Hard to imagine a touching finale.

Tachioka: Sliding puzzle!

Crisan: Slavko would have certainly enjoyed reading all these comments!

Thank you, Slobodan, for sending this jewel for Problem Paradise.

F1100 Chris Feather
C+ (UK)



SH#15 (3+3)

Chameleon Rook b7
Equipollents Circe

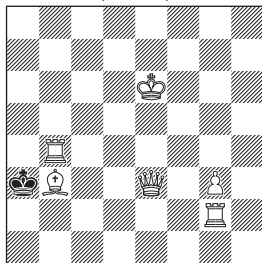
1.cRc7=cQ 2.cQ:d7=cS[Se7] 3.cSc5=cB
4.cBg1=cR 5.cRh1=cQ 6.cQ:h2=cS(h3)
7.cSf3=cB 8.cBh1=cR 9.cR:h3=cQ(h5)
10.cQ:h5=cS(h7) 11.cSf4=cB 12.cBh6=cR
13.cR:h7=cQ(h8=cQ) 14.cQg8=cS
15.cS:e7=cB(Sc6) cQc3=cS#

Author: Miniature. Four-fold full transformation of black chameleon (RQSB) in minimum number of moves.

Wakashima: The solution can be deduced quite logically. An excellent puzzle.

Crisan: Not only Tadashi solved this, but also the 12-years-old Iancu Sandea. Once you are able to solve such a beautiful problem you will be caught forever by the wonderful fairy chess composition world.

F1101 Vladimir Jovičević
C+ (Serbia)



(*) SH#28 (6+1)

1...Ra4#

1.K:b4 2.Kb5 3.Kc6 4.Kc7 5.Kd8 6.Ke8
7.Kf8 8.Kg7 9.Kg6 10.Kh5 11.Kg4 12.Kh3
13.K:g2 14.Kh3 15.Kg4 16.Kh5 17.Kg6
18.Kg7 19.Kf8 20.Ke8 21.Kd8 22.Kc7
23.Kc6 24.Kb5 25.Kb4 26.Ka3 27.Kb2
28.Ka1 Qc1#

Kurokawa: Once you get to the point Kxg2, the rest is easy.

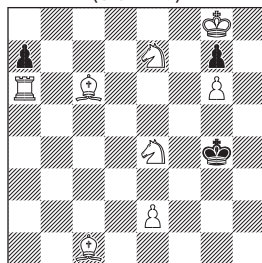
Kobayashi: Easy and enjoyable.

Sunouchi: Trace own footsteps after eliminations.

Tachioka: Narrow road journey.

Crisan: Another highly successful problem with 7 correct answers. The solution flows almost by itself.

F1102 Ľuboš Kekely
C+ (Slovakia)



SH=22 (8+3)

1.Kh3 2.Kg2 3.Kf1 4.K:e2 5.Kd1 6.K:c1
7.Kc2 8.Kd3 9.Kd4 10.Ke5 11.Ke6 12.K:e7
13.Ke6 14.Kf5 15.K:g6 16.Kh6 17.g5
18.g4 19.g3 20.g2 21.g1=B 22.Bb6 Be8=

Author: Meredith. Long walk of black king. Excelsior. Minor promotion. Battery. Model pin stalemate.

Kurokawa: I spent a lot of time to find the final position. bK' s path is nicely determined.

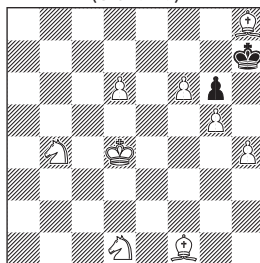
Kobayashi: Difficult.

Sunouchi: Efficient stalemate with sparkling Bb6.

Tachioka: It was a little difficult to capture Bc1.

Crisan: The anticipatory selfpin of the promoted black Bishop is the highlight of the problem.

F1103 Ľuboš Kekely
C+ (Slovakia)



SH=25 (9+2)
Bicolores

1.Kg8 2.Kf7 3.Ke6 4.K:d6 5.Kc7 6.Kb67.
Ka5 8.K:b4 9.Kb3 10.Kc2 11.K:d1 12.Ke1
13.Kf2 14.Kg3 15.K:h4 16.K:g5 17.Kg4
18.g5 19.Kf5 20.g4 21.g3 22.g2 23.g1=R
24.Rg7 25.K:f6 Bh3=

Author: Meredith. Long walk of black king. Minor promotion. Ideal pin stalemate.

Sunouchi: Sensitive moves for delicate structure.

Tachioka: Kg4 is clever.

Wakashima: Isn' t there Bicolores type B yet?

Tachioka: I tried chess problem for the first time. I might be wrong the rules and English.

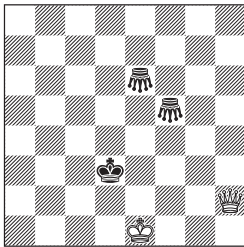
Crisan: Tachioka, please keep on solving

chess problems! Curiously, there is only one Bicolores type so far, but I guess nobody will complain if a variation is invented.

Congratulations for all eight solvers and many thanks for the excellent and enjoyable comments! Tadashi convincingly wins this round, being the only one who solved F1091, F1097 and F1100. Welcome to Hajime who starts with an impressive performance finishing on second place and followed by Seiichiro at a very short distance. Very good solving skills were displayed also by Tomoki and Kankuh. My encouragements go to Akira, Katsuhisa and Masakazu – please follow the solutions and the comments in order to improve your results next time. To all of you: good luck in this issue.

One special mention deserves our reader Sébastien Luce, who was particularly interested in improving the originals published in our previous numbers. He suggested the following version for a composition published in PP 87:

F1049(v) Slobodan Šaletić
C+ (Serbia)



SH#4 2 Sols (2+3)

Grasshoppers e6 f5

1.Ke3 2.Ge2 3.Ge4 4.Gd3 Qf2#

1.Gc2 2.Kc3 3.Gc4 4.Gb3 Qd2#

His other contribution, inspired after F1043, is published as original in this issue.

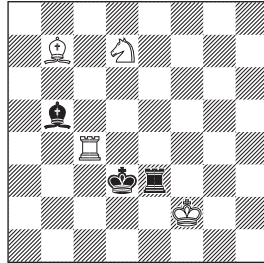
Thank you, Sébastien, for all your contributions!

WCCT-11 課題 (4)

Section D: Endgame Studies

課題：ある局面で白が active sacrifice をする 2 通りの方法があり、1 つは try でもう 1 つが正解。捨駒は違う駒でもいい。捨駒は駒取りもしくははヒモ付きではいけない。

D Steffen Slumstrup Nielsen
Pat a Mat 2014 1st Pr



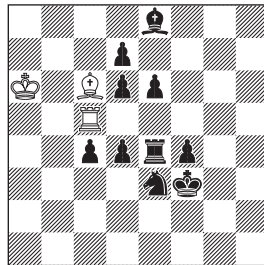
Win (4+3)

1.Rb4 Re2+ 2.Kf1 Re7 3.Sc5+ Kc3 4.Rxb5
Kc4 5.Ba6 Re5 **6.Sd3!** Rxb5 7.Ke2 win
6.Se6? Rxb5 7.Sc7 Kc5 8.Bxb5 Kb6 draw

Section E: Helpmates

課題：H#3.5-n。白が動かした駒が、直後ではなく手数後に黒に取られる。

E Thomas Maeder
Idee & form 2003



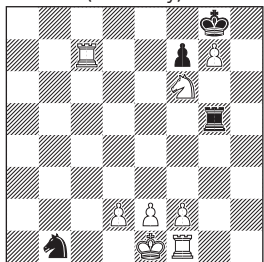
H#3.5 (3+10)

b) Kf3→g4

a) **1...Rd5** 2.Re5 Ba8 3.Ke4 Kb7 **4.Kxd5**
Kb6#

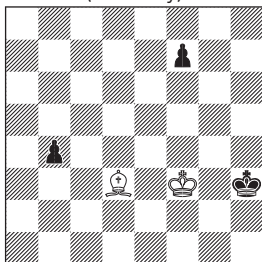
b) **1...Bd5** 2.Kf5 Ra5 3.Ke5 Kb5 **4.Kxd5**
Kb6#

R293 Andreas Thoma
(Germany)



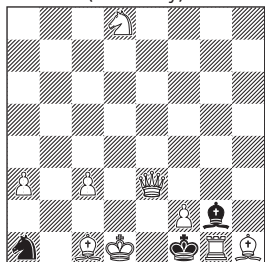
-2 & S#1 (8+4)
Proca Retractor
AntiCirce Cheylan

R294 Andreas Thoma
(Germany)



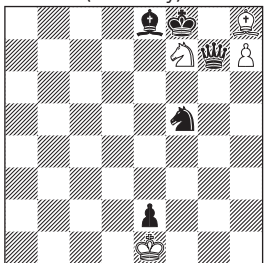
-4 & #1 (2+3)
Proca Retractor
AntiCirce Cheylan

R295 Andreas Thoma
(Germany)



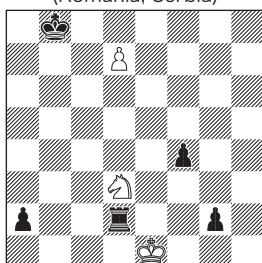
-6 & S#1 (9+3)
Proca Retractor
AntiCirce Cheylan

R296 Andreas Thoma
(Germany)



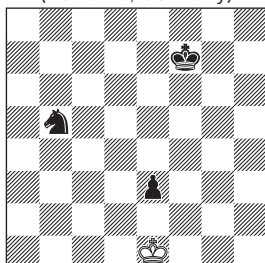
-3 & #1 (4+5)
Proca Retractor
AntiCirce Cheylan

R297 Paul Răican
Bojan Bašić
(Romania, Serbia)



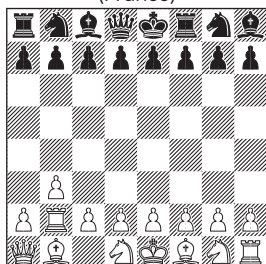
-8 & S#1 (3+5)
Proca Retractor
AntiCirce Calvet

R298 Paul Răican
Andreas Thoma
(Romania, Germany)



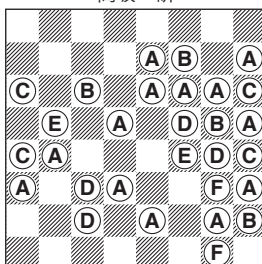
-15 & #1 (1+3)
Proca Retractor
AntiCirce Cheylan

R299 Pierre Tritten
C+ (France)



Proof Game 7.5 (16+16)
Point Reflection

R300 Ken Kousaka
高坂 研



Associate a different chess unit to each letter.
Colour the pieces.

Retro

Retro Editor

Naoki Matsuzaki (松崎直樹)

Judge 2019-2020

Thomas Brand (Germany)

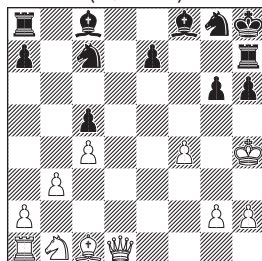
☆今回の新作は Retractor 6 作と PG 1 作、Rebus 1 作の計 8 作です。R293 は、最後に bS を取ってチェックしたとき、wS を取るか黒駒で再生位置を塞ぐかすると白が詰む形にします。初手に対する応手で 3 通りの変化に分かれます。そのうち 1 つは wK が 2 回駒取りを戻します。R294 の初手はすぐに見えろと思います。黒が即詰みを逃れる手段は限られていますので、手数が長くなるように進めてください。途中黒駒が戻る位置が非限定ですが、その後は同じように進みます。R295 は、対角線が空けば B が動いてチェックでき、黒が逃げると詰む形になります。序盤に白は同じ手を繰り返します。R296 は、まずダブルチェックを戻させて守りを薄くします。その後 bQ のチェックを戻しますが、1 段目に戻れない形になります。R297 は -2 手目に 8 段目に戻させた黒駒が最後に白を詰まします。1 箇所だけ逃げ道が残ってしまうので黒駒が利くように進めます。wK は駒取りを戻しながら e1 と e2 を往復します。R298 は途中ダブルチェックを逆算するために一方の再生位置にもう一方を戻す、という手順が複数登場します。最後は e8 を塞ぎ、bK を 8 段目に戻させて wK で詰まします。R299 は点鏡ルール PG で、盤の中心に関して点対称な位置にある駒の動きが入れ替わります。S の動きを上手く使って駒の位置を入れ替えます。P は 1 度しか動きません。R300 の日本語での問題設定は『各文字に駒種を対応させ、更に色付けもして、合法的局面を作れ。(尚、盤面の回転はない)』です。

まずは P が取った駒の数や成った P の数などを数えて、計算が合うようにしてください。あとは理詰めで解けるとと思います。一部のみでも構いませんので是非解答をお寄せください。R294 と R300 が解きやすいと思います。

【お詫び】90 号 p.33、R279 の stipulation に "Assassin Circe" が抜けておりました。申し訳ありません。

Issue 89 (R280-285)

R280 Paul Răican (Romania)



Proof Game 31.5 (11+12)
Duelist

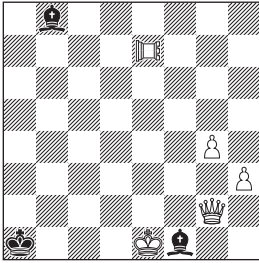
1. d3 Sf6
2. d4 Sd5
3. b3 Sb4
4. c3 Sa6
5. c4 Sc5
6. e3 Se4
7. Qh5 Sf6
8. Qxf7+ Kxf7
9. Bd3 Kg8
10. Bg6 (bK stalemated)
11. h6
12. Bh5 Rh7
13. Bf7+ Kh8
14. Bd5 (bK stalemated)
15. c6
16. Bxc6 Sxc6
17. e4 Se5
18. f4 Sf3+
19. Sxf3 g6
20. Sg5 Sg8
21. Sf7+ Kg7
22. Sxd8 Kh8
23. Se6 b6
24. Sc5 bxc5
25. d5 d6
26. e5 dxe5
27. 0-0 e4
28. Kf2 e3+
29. Kg3 e2
30. Kh4 exf1=S (wK stalemated)
31. d6 Se3
32. d7 Sd5
33. d8=Q Sc7
34. Qd1

ある駒を動かしたら次の自分の手番でもその駒を動かさなければならぬというルール。動かす駒を切り替えるために、P の前に

駒を置いて動けなくしたり、チェックして K を動かした後 K を動けなくしたりという手順を繰り返すことになる。

Author: Q Phoenix-Pronkin, S Phoenix, 3x Pawn hesitation.

R281 Klaus Wenda
Vlaicu Crisan
(Austria, Romania)



-9 & S#1 (5+3)
Proca Retractor
AntiCirce Calvet
Pao e7

- 1. Kg3xPAh2(Ke1) Ba7-b8+
- 2. Kf2-g3 Bb8-a7+
- 3. Ke2-f2 f2-f1=B+
- 4. Ke1-e2 f3-f2+
- 5. Ke2xPd2(Ke1) PAh1-h2+
- 6. PAa7-e7 f4-f3+
- 7. Ke1-e2 d3-d2+
- 8. Kh4xQg3(Ke1) Qh2-g3+
- 9. PAa8-a7 & 1. Qa2+ Qxa2(Qd8)#

初手、白を詰ますための駒として PA を逆算する。-2 手目の局面について、bPAh2 の再生位置は駒を取った筋の 1 段目で、bBf1 があるので Kf2 には PA が利いてない。-3 手目は e1 が空いているので PA と B のダブルチェックとなる。その後 wPA を a7 に戻してから、-8 手目に PA と Q のダブルチェックを戻させる。最後に白が PAa8 と戻し、bK が駒を取って逃げられないようにしてか

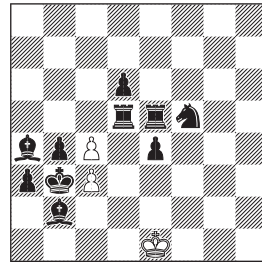
ら PA と Q のダブルチェックをかけ、黒が取ると詰みとなる。

Authors: The double check is necessary; otherwise Black can play 1...PAD1! in the forward play. Also AntiCirce Calvet is necessary; otherwise Black can play 1...Kxa2(Ke8)! in the forward play.

There are several unsuccessful cook attempts, for instance:

- 5. Ke2xBd2(Ke1)? Be1-d2+! (echoing the position after the retraction of the 2nd Black move).
- 6. PAe8-e7? f4-f3+ -7. Ke1-e2 d3-d2+ -8. Kh4xQg3(Ke1) Qh2-g3+?
- 9. PAa8xXe8(PAe8)! & 1. Qa2+ Qxa2(Qd8)# but Black can retract the very spectacular -8...PAD8xXh8(PAh1)!!

R282 Andreas Thoma
(Germany)



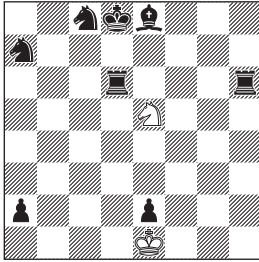
-6 & #1 (3+10)
Proca Retractor
AntiCirce Cheylan

- 1. Ke1xPd2(Ke1) d3-d2+
- 2. Kd2xRc2(Ke1) Rc1-c2+
- 3. Ke1-d2 Rc2-c1+
- 4. Ke1xRd1(Ke1) Rd2-d1+
- 5. Kb1xBc1(Ke1) Re8-e5
- 6. Ka1-b1 & 1. Ka2#

wK で詰ますしかないので e8 を塞がなけ

ればならないが、wKが8段目から戻って詰ます余裕はない。黒駒をe8に戻させるために retro-stalemate を活用する。逆算可能な合法手が存在しないような局面は禁じられており、白黒ともに回避する義務がある。白が-5手目を戻した局面で白の直前の手を考えると、-6. Ka1-b1 しか有り得ないことが分かる。bBb2によるチェックを逃れてきたことになるが、このBは直前に動いていないので、再生位置であるf8の駒が動いてチェックしたはずである。2手前にf8にあった可能性のある駒はbRe5のみで、Rf8-e8+-e5と動いたことになる。したがって黒の手は-5...Re8-e5しか有り得ない。

R283 Andreas Thoma (Germany)



-3 & #1 (2+8)
Proca Retractor
AntiCirce Cheylan

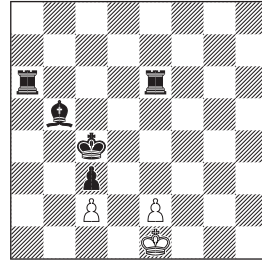
- 1. Kf6xRe7(Ke1) Rh8-h6+ -2. Ke6-f6
- 2...Ra8xQb8(Rh8)+ -3. Qb7-b8 & 1. Sf7#
- 2...Ra8xBb8(Rh8)+ -3. Rb7-b8 & 1. Sf7#
- 2...Ra8xBb8(Rh8)+ -3. Sd7-e5 & 1. Bc7#
- 2...Ra8xSb8(Rh8)+ -3. Sa6-b8 & 1. Sf7#

bPe2がe1に利いているのでwKで詰ますことはできない。bKに逃げられなければ

wSf7で詰むので、ダブルチェックを活用してbRに取られた白駒を戻す。QやRが発生したときは、これらでチェックするとPを再生位置に進められてしまうので、c7に利かすのに使う。Bが発生したときは、Kを動かしたりBをPに戻したりしても詰まない。Sを戻してBで詰ます。

則内：K takes risk against acrobatic R.

R284 Andreas Thoma (Germany)

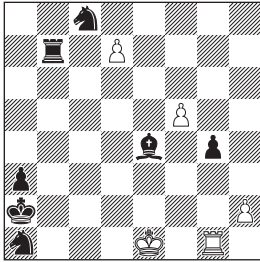


-3 & #1 (3+5)
Proca Retractor
AntiCirce Cheylan

- 1. d6xSe7(Pe2) R~6-e6+
- 2. Kd7xBe8(Ke1) Sc8-d7+
- 3. Kc6-d7 & 1. Kc5#

e8を塞いでKc5とできれば詰む形だが、黒にRc6と受ける余地があるため、事前に潰しておく必要がある。初手でbSe7を戻し、続いて白マスbBのダブルチェックの局面にすると、逆算するにはc8を塞ぐしなくなる。

R285 Andreas Thoma
(Germany)



-4 & #1 (5+7)
Proca Retractor
AntiCirce Cheylan

- 1. Kf3xRg2(Ke1) g5-g4+
- 2. g3xSh4(Ph2) Sg6-h4+
- 3. Kf2-f3 Sh8-g6+
- 4. Rb1-g1 & 1. Rb2#

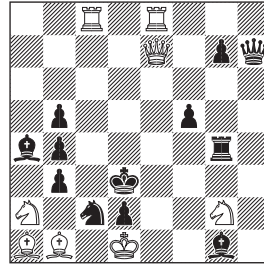
e8を塞いでKで詰ますには手数が足りない
ので他の白駒を使う必要がある。自身の再
生位置にある黒駒はなく、白駒取りを逆算さ
せることができないのでRで詰ます。Rb2
とすれば、KとPはこのRを取れないが、
Rxb2(Rh8) と Bh1 の受けがある。そこで
bR と bS を発生させてこれらの受けが成立
しないようにする。

WCCT-11 課題 (5)

Section F: Selfmates

課題 : S#3-7. key move はスレット付き。
黒の初手の defense は、バッテリーを作る
手。白がスレットの手順をそのまま実行する
と、黒のバッテリーが開いて逃れになる。

F Aleksandr Feoktistov
6. WCCT 1998-2000 12th Pl



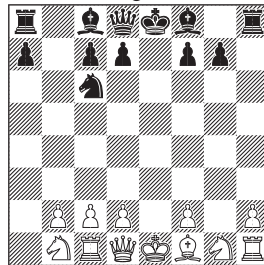
S#3 (8+12)

- 1.Qe6! (2.Rcd8+ Rd4/Bd4 3.Bxc2+
bxc2#)
1...Qh5 2.Qe3+ Bxe3 3.Sxb4+ Rxb4#
(2.Rcd8+? **Rd4+!**)
1...Qh1 2.Sf4+ Rxf4 3.Qe3+ Bxe3#
(2.Rcd8+? **Bd4+!**)

Section H: Retros

課題 : Proof Game. 初形でテーマになるマ
ス A、そこにいる駒 X とする。次の 3 つの要
素を含むのが条件 (どんな順でもいい)。
1) X もしくはその sibling が取られる。
2) 同色の P が X に成り、A に来る (Pronkin)。
3) 相手の P が A で成る。その成駒は後に取
られる (Ceriani-Pronkin)。

H Andrey Frokin
Original



Proof Game 9.5 (12+12)

- 1.g4 b5 2.g5 b4 3.g6 b3 4.gxh7 bxa2
5.hxg8=S axb1=S 6.Sxe7 Sc3 7.Sd5
Sxe2 8.Sc3 Sxc1 9.Rxc1 Sc6 10.Sb1

U272c Umayabara Go

馬屋原剛

皇	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	皇
	飛							馬
糸	糸	糸	糸	糸	糸	糸	糸	糸
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
	角						飛	
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香

▲ なし ▼ なし

ブルーゲーム 13 手

76 歩、74 歩、55 角、75 歩、
82 角生、76 歩、55 角生、77 歩成、
82 飛、88 と、同角、73 歩、
77 歩まで 13 手。

☆玉方飛車が入れ替わっただけの初形。解いて
みたくなる顔をしていて、ブルーゲームへの
いい導入と思つての選題。実際、作意が見えた
方からは好評だった。

原岡：よく見つけました。

及川：88 飛のタイミングが絶妙。

黒川：シンプルな条件で成立しているのがすご
い。

神在：PGの曲詰といった感。手順は我が道を行
く一直線。

九尾：案外あっさり解けました。

若島：棋友に出題してみたくなる作品。

太刀岡：易しいが、配置がとても良い。77 歩
成の限定も凄い。

☆しかし……。

駒井：先手の歩を伸ばす手順で余詰あり。

36 歩、34 歩、35 歩、44 角、34 歩、55 角、
33 歩成、22 飛、同と、同角、82 飛、33 歩、
37 歩、まで 13 手。

96 歩、94 歩、95 歩、92 飛、94 歩、同飛、98 歩、
97 飛、同歩、92 歩、72 飛、93 歩、82 飛生
まで 13 手。(3~7 筋でも成立)

☆余詰多数。作意が見えてしまうとそれしかな
いように思えてしまうというブルーゲームの
難しさ…。しかし本誌初登場となった作者には

誤図の再出題から余詰ということで、担当とし
て申し訳ない限り。

U275 SHIOMI Ryo

塩見亮

皇	桂	銀	金			金	銀	桂	皇
馬	飛								馬
歩	歩	歩	歩	歩	歩	王	歩	歩	歩
歩	歩		歩	歩	歩		歩	歩	
								飛	
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	

▲ なし ▼ 歩

ブルーゲーム 15 手

76 歩、32 飛、33 角生、52 玉、
51 角生、37 飛生、62 角成、42 玉、
72 馬、32 飛生、82 馬、33 玉、
92 馬、82 飛、36 歩まで 15 手。

黒川：93 角成~92 馬ばかり考えてしまった。
51 から潜り込むとは。

☆ひと目見て、角は端からもぐりこむものと考
えるのが普通。しかし、作意は 33 から進入し
てずいずいっと馬を寄せていく手順。ブルー
ゲーム慣れしている人ほど見えにくそうな手順
で、その不思議な感触が好評を集めた。

太刀岡：2 枚も取ったら戻せないとはいえ、こ
んな遠回りが成立するとは驚き。玉移動のタイ
ミングが限定されているのも面白い。

及川：角成のタイミングが重要。

若島：すれ違いがユーモラス。

星野：36 歩がうまい配置で作者の罠にはまる。

U276 UCHIDA Akira

内田昭

皇	桂	銀	金	王	銀	皇	
						皇	桂
歩	歩	歩	歩	歩	桂	歩	歩
			歩		角		
		歩					
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩
	飛			金	玉		
香	桂	銀	金	銀	?	?	桂

▲ なし ▼ なし

ブルーゲーム 25 手

76 歩、44 歩、同角、34 歩、
66 歩、35 歩、同角、66 角、
62 歩、同飛、88 飛、12 飛、
48 玉、22 角、38 玉、33 桂、
28 玉、38 歩、48 銀、39 歩成、
59 銀、48 歩、38 金、49 歩成、
65 歩まで 25 手。

☆先手陣に 2 枚のと金を作るために、後手にうまく歩を持たせる必要がある。作意は 6 筋の歩が切れた一瞬をついての 62 歩がびったりの一手で好評を集めた。

駒井：後手の歩を伸ばすのではなく角で取り合うのがカギ。当然ながら非限定のない手順構成はさすが。

星野：後手に一步を渡さなくてはならない。歩が切れそうなのは 6 筋のみ。という訳で、62 歩を発見できたら一気に解決。

太刀岡：62 歩が良い。歩成の部分は易しいが、これが限定できるのは知らなかった。

若島：1 手で 1 歩渡せる可能性が 62 歩しかないところがうまくできている。

☆しかし、これも……。

松崎：58 飛、34 歩、48 玉、77 角不成、66 歩、同角不成、38 玉、12 飛、28 玉、22 角、48 銀、44 歩、同角、35 歩、同角、38 歩、59 銀、39 歩成、38 金、48 歩、88 飛、49 歩成、76 歩、33 桂、65 歩迄 25 手

☆後手飛車の途中下車の代わりに後手角で 2 枚歩を先に取らせてしまう順があった。指摘は松

崎氏のみ。粗検申し訳ありません。

U277 FUJIWARA Toshimasa

藤原俊雅

				龍			
					桂	馬	
		皇					
				王		銀	
			?			銀	
					桂		

▲ 金香

詰将棋 b) 持駒 金桂

a) 37 香、同馬、45 龍、同桂、
34 金、36 玉、14 馬まで 7 手。
b) 47 桂、同と、45 馬、同桂、
25 金、36 玉、32 龍まで 7 手。

☆期待のホープがプロバラ初登場。普通詰将棋のツインで、こうした作品はまだバラ等では発表しにくい風潮がある。

☆ a では香捨て→45 に龍捨て→馬での透かし詰。持駒の香が桂に変わった b では桂捨て→45 に馬捨て→龍での透かし詰、というように、構成全体が見事な対比になっている。縦の透かし詰と斜めの透かし詰でまったく別の構図になってもおかしくなさそうなところ、持駒を変えただけでこれだけ巧みに表現しているのはさすが。好評を集めた。

原岡：見事な対照。

黒川：無駄駒なく自然な対比が良い。

太刀岡：対称性はもちろん、配置の軽さ、特にどちらの作意でも全部必要駒なのが良い。

九尾：a の方が少し難しかったです。

及川：詰み位置が同地点のジラヒ。綺麗な構成。

若島：プロBLEM式に言えば Zilahi + ODT。対照性を完璧に押さえた作り。

星野：尻金は結構盲点になった。

U278 DEGUCHI Nobuo

出口信男

					桂
			王	角	
			桂		

▲ 飛飛金

かしこ7手

Transmuted King

32 飛、同玉、33 金、同桂、
42 飛、同玉、31 角生まで7手。

☆このルールの大作を解く前のウォーミングアップとして選題。なお、作者によると Transmuted King ではなく Transmuted Kings が正しかったとのこと。56号小倉杏作の表記にならったとのことで、以下短評では鏡や天竺と呼ばれていることが多いが、解説では作者の呼び方を尊重することとする。どれもルールとしては同じということでご理解いただければ。

【編集部注：Transmuted King は、後手の玉にのみ条件を適用。Transmuted Kings は、双方の玉に条件を適用。】

☆本作、詰上がりに気づけば非常に合理的な手順なのだが、これがなかなか見えづかったよう。また初手と6手目は桂が跳ねているという変化しかなく、そのためだけに持駒をすべて捨てる手順も好評を集めた。

黒川：簡素に出来ているのが良い。2手目43玉に対して1手で詰むのが気付きにくい。

原岡：これは分かり易いです。

太刀岡：飛車は弱く角は強いということがわかりました。

駒井：飛金3枚捨てて詰むのが驚き。

九尾：詰上りに気付いて一気に解決。

及川：6手かけて33地点を封鎖。最終手不成が肝。

さんじろう：原型のまま21桂を33に跳ばせるために、飛飛金を費やす巨匠のユーモア作。初形も面白く詰上がりも珍形で好作。

星野：31角生の一発で詰むのは凄いです。

U279 DEGUCHI Nobuo

出口信男

			飛	銀		飛
						角
						王
						角

▲ 銀

かしこ13手

Transmuted King

23 角引生、11 玉、22 銀、同玉、
32 銀成、13 玉、11 飛生、同玉、
21 成銀、同玉、32 角生、12 玉、
23 角上生まで13手。

☆初手23角成などの普通詰将棋のような手では79玉と逃げられる。23角生がルールに慣れると自然な手とはいえ好手。以下は銀捨てのさばきを交えつつ、13玉に11飛で王手して取らせる手順を二度繰り返すのが味わい深い。最後は初手と同じ駒種、位置の別着手で生角2枚での詰上がり。

原岡：何とか解けました。確かに「鏡」と言っていましたね。

内田：鏡は創作解図欲のわくルール。

さんじろう：生角2枚の珍形詰上がり面白く、易しくて良い作。

黒川：収束はすぐ見えたが、22銀～32銀成が指しにくい。

九尾：24に逃がさないように意識すれば容易。太刀岡：生角でミ二煙になるのは不思議な感覚。

及川：軽趣向風味があり、面白かったです。

若島：Transmuted King の特性を活かしている。

U280 DEGUCHI Nobuo

出口信男

角	香	曼					
	と	と	と	と	と	と	と
	桂	と	桂	桂	桂		
		曼	香	曼	香	曼	香
		金	銀			龍	
王	香					と	
		金				香	銀
	馬				銀	と	銀
					金	香	歩

▲ なし

かしこ 111 手

Transmuted King

87 馬、95 玉、86 金、94 玉、
 76 馬、93 玉、94 馬、同玉、
 85 金上、93 玉、84 金右、同と、
 94 歩、同と、92 と、同玉、
 82 角成、同歩、91 桂成、93 玉、
 92 成桂、同玉、82 と、同玉、
 83 歩、同玉、74 銀、同香、
 94 金、73 玉、84 金、72 玉、
 71 桂成、同玉、62 と、同玉、
 63 歩、同玉、74 金、53 玉、
 64 金、52 玉、51 桂成、同玉、
 42 と、同玉、43 歩、同玉、
 54 金、33 玉、44 金、32 玉、
 31 桂成、同玉、22 と、同玉、
 23 歩、同玉、34 金、13 玉、
 24 金、同と、※ 14 香、同と、
 同龍、同玉、15 香、同玉、
 16 香、同と、同銀、同玉、
 27 銀左、同と、17 金、同と、
 同銀、同玉、18 香、同龍、
 同歩、同玉、19 歩、同玉、
 29 飛、11 玉、12 歩、同玉、
 13 歩、同玉、14 歩、同玉、
 15 歩、同玉、16 歩、同玉、
 17 歩、同玉、28 金、16 玉、
 27 金、15 玉、26 金、14 玉、
 25 金、13 玉、24 金、12 玉、
 23 金、11 玉、22 金まで 111 手

☆大作！ Transmuted King の全駒煙である。
 左辺での細やかなさばきを経て、金追いによる趣向部が始まる。持駒に香があり、また 25 の龍がにらみを利かしているの、四段目の金は取れない。この金追いは香を回収しながら進んでいき、香を 4 枚持った状態で縦追い部に入る。縦追い部では、香の連打で玉を上部に引き寄せたから、飛車を取って 29 飛、11 玉とルールを活かした気持ちいいジャンプが見られる。その後歩の連打でまた玉を呼び出し、また金で追い落とす趣向そのものといった収束。私が前例に疎く、比較して論じることができないのが申し訳ないが、フェアリーの全駒煙として理想的な表現になっているように思われる。

☆残念ながら横追いから縦追いへの接合部に一失あり。

※ 15 香として 14 歩合、同香、同と、同龍…（作意と同様）…17 歩、同玉、18 歩、同玉、28 金までの早詰。14 歩合のところまで同となら同龍、14 歩合（93 玉は 94 歩、同玉、95 香まで）、同龍、同玉、15 香以下同じ。14 桂合は作意同様に進んで 19 歩のところ 28 飛、11 玉、23 桂まで。

しかしその早詰込みでも本作は大好評。作者の修正を待ちたい。

黒川：変則ルールの全駒煙は初めて見たのですがルールがうまく活かされている。

駒井：序盤のほぐし方で少し悩んだが、後は縦追いで楽しく解けました。

九尾：締切間際に解いたので怪しい解答ですが、手数合っているので大丈夫？ 徐々に煙を解きました。

及川：歩と香を補充していく趣向部が見事で、収束も含めてとても楽しい煙詰でした。

太刀岡：楽しい煙。斜め後ろを封じることによって整然とした動きが可能になる。

Continued on p.56

Problem Paradise

Informal Tourney Award

Orthodox 2018-2019

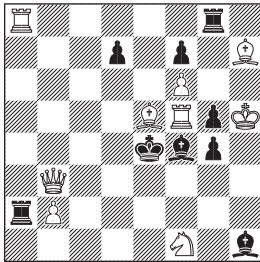
Judge: Mike Prcic

#2 section

I judged 26 entries of modest quality: D467-D471, D477, D482-D484, D494-D496, D505-D509, D515-D517, D522-D527. There were many miniatures and some made it into the award. Here is my ranking:

1st Prize

D470 Gvi Mosiashvili
C+ (Georgia)



#2 vv (9+9)

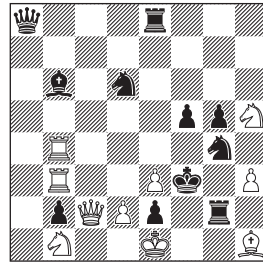
An impressive entry with set, try and changed mates. The key is average.

Set: 1...Bf3 2.Qc4#;
1.Re8? (2.Rxf4#),
1...Bxe5 2.Qc4#, 1...Rxe8 2.Rg5#,
but 1...Rg6!;
1.Kxg4! (2.Qc4#),
1...Bxe5 2.Rf4#,
1...Bf3+ 2.Qxf3#,

1...Rc8 Rxg5#,
1...Ra4 2.Rxa4#,
1...d5 2.Qc2#.

2nd Prize

D469 Miroslav Subotic
C+ (Bosna Hercegovina)



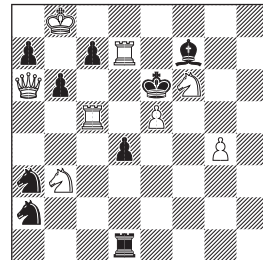
#2 v (10+11)

Good try with good dual avoidance utilizing Sushkov theme.

1.d4? [2.Sd2# (2.Qxe2?)],
1...Se4/Sc4 2.Qxe2/Qxf5#,
but 1...Qa1!;
1.d3! [2.Qxe2# (2.Sd2?)],
1...Rxe3/Kxe3 2.Sd2/d4#.

1st Honorable Mention

D471 Aleksandr Pankratyev
C+ (Russia)



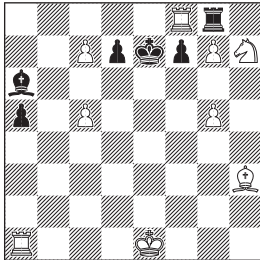
#2 vv (8+9) (8+9)

Numerous good tries and fine key.

- 1.Rdxc7? (2.Qc8#), 1...Be8!;
 1.Sh7? (2.Sf8#) 1...Kxd7!;
 1.Sg8? (2.Re7#), 1...Kxd7 2.Qc8#,
 but 1...Bxg8!;
 1.Qf1? (2.Qf5#), 1...Rxf1 2.Sxd4#,
 but 1...Bg6!;
 1.Qe2? (2.Rc6#), 1...Rc1/Sc4(Sb5)/
 bxc5 2.Sxd4/Qxc4/Sxc5#, but 1...Sb4!;
 1.Qc8? (2.Rdxc7#), 1...Be8 2.Qxe8#,
 but 1...bxc5!;
 1.Rcd5? (2.Sc5#), 1...Rc1 2.Sxd4#,
 but 1...c6!;
 1.Sd5! (2.Re7#),
 1...Kxe5/Kxd7 2.Qe2/Qc8#.

2nd Honorable Mention

D527 Miloje Ilic
 C+ (Serbia)



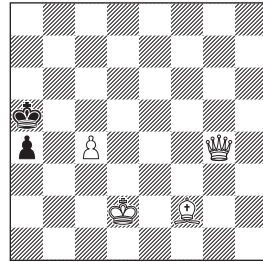
#2 (9+6)

The Valladao theme with two promotions and two en passant moves.

- 1.Rd1? Bc8!;
 1.0-0-0! (2.Rxd7#),
 1...Bb5/Bd3 2.c8S#,
 1...Bc8 2.Re1#,
 1...d5 2.cxd6 e.p.#,
 1...Rxf8 2.gxf8Q#,
 1...f5 2.gxf6 e.p.#.

3rd Honorable Mention

D505 Victor Zheltukhov
 C+ (Russia)



#2 (4+2)

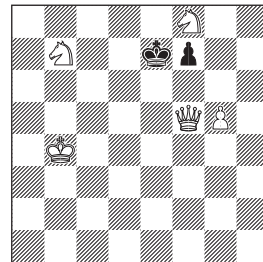
I like this miniature because none of the three mates are set.

- 1.Qf3! (zz),
 1...Ka6/Kb4/a3 2.Qa8/Qc3/Qxa3#.

Commendations are without ranking.

Commendation

D477 Eligiusz Zimmer
 C+ (Poland)



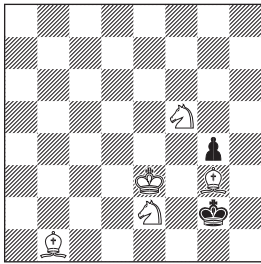
#2 (5+2)

The key gives two flights.

- 1.Sd6! (zz),
 1...Kxd6/Kxf8/Kd8/f6
 2.Qc5/Qxf7/Qd7/Qxf6#.

Commendation

D526 Victor Zheltukhov
(Russia)



#2 (5+2)

A flight-giving key is combined with the black King's star.

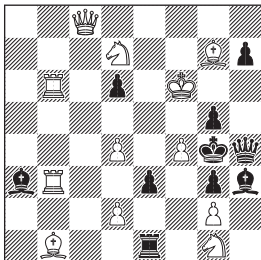
- 1.Kd2! waiting
- 1...Kh1/Kf1/Kf3/Kh3
- 2.Be4/Se3/Sh4/Sf4#.

#3 section

There were 23 threemovers published in the 2018-2019 period: D461-D463, D472-D474, D478-D479, D485-D490, D497-D500, D510-D511, D518-D520. There were several good miniatures but few strategic threemovers. Here is my ranking:

Prize

D485 Gheorghe Tanase
(Romania)



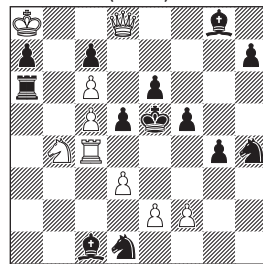
#3 (12+10)

A wonderful key placing the white King under two black batteries resulting in two cross-checks.

- 1.Ke7! (2.Sf6+ Kxf4 3.Sd5#),
- 1...exd2+ 2.Se5+ Kh5/Kxf4 3.Qe8/Rf3#,
- 1...d5+ 2.Sc5+ Kh5/Kf4 3.Rh6/Be5#,
- 1...Kxf4 2.Qf8+ Bf5/Kg4 3.Qxf5/Qf3#,
- 1...gxf4+ 2.Sf6+ Kg5 3.Sf3#,
- 1...Rxb1 2.Sf6+ Kxf4 dxe3#,
- 1...Bxg2 2.Sf6+/Se5+,
- 1...Qh5/Qh6 2.Sf6+ Kh4 3.Qxh3#.

1st Honorable Mention

D510 Leonid Makaronez
(Israel)



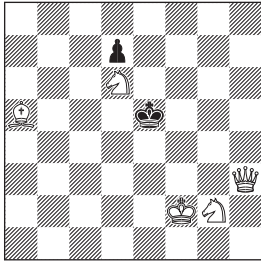
#3 (9+13)

A sacrificial key is followed by three black self-blocks.

- 1.Sxd5! (2.Qc7+Kd5 3.Qd6#),
- 1...Bf4 2.d4+Ke4 3.Sf6#,
- 1...Rc6 2.Qf6+Kd5 3.Qd4#,
- 1...exd5 2.Qe7+ Be6 3.Qg7#,
- 1...f4 2.Re4+ Kf5 3.Qf6#.

2nd Honorable Mention

D490 Petrasin Petrasinovic
C+ (Serbia)



#3 (5+2)

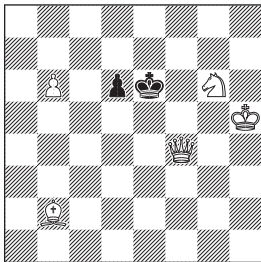
A nice miniature with clean position and sacrificial key.

1.Sf4! (2.Qc3+ Kxf4/Kxd6 3.Qg3/Bb4#),
1...Kxd6 2.Qe3 zz Kc6 3.Qb6#,
1...Kf6 2.Qh6+ Ke7/Ke5 3.Sd5/Bc3#.

Commendations in order of publishing.

Commendation

D473 Petrasin Petrasinovic
C+ (Serbia)

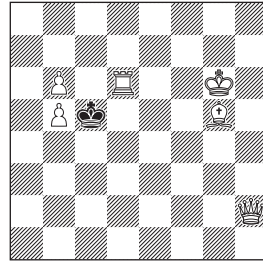


#3 (5+2)

A good key with some nice mates.
1.Qa4! (zz), 1...Kf7 2.Qd7+ Kg8
3.Qg7#,
1...d5 2.Qe8+ Kf5/Kd6 3.Qe5/Ba3#,
1...Kd5 2.Sf4+ Kc5 3.Bd4#.

Commendation

D498 Petrasin Petrasinovic
C+ (Serbia)

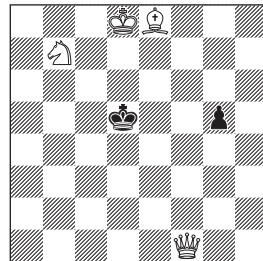


#3 (6+1)

1.Qa2! (zz),
1...Kxd6 2.Qc4 zz 2...Kd7/Ke5 3.Qc6/
Bf4#,
1...Kxb5 2.Bd2 zz Kc5 3.Qd5#,
1...Kb4 2.Rd5 Kc3 3.Bd2#.

Commendation

D511 Petrasin Petrasinovic
C+ (Serbia)

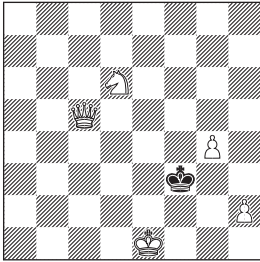


#3 (4+2)

1.Bg6! (2.Qb5+ Kd4/Ke6 3.Qc5/Qf5#),
1...Kd4 2.Qd3+ Ke5 3.Qd6#,
1...Ke5 2.Qf5+ Kd4 3.Qc5#,
1...Kc6 2.Qb1 (3.Be4#) Kd5 3.Qe4#.

Commendation

D520 Petrasin Petrasinovic
C+ (Serbia)



#3 (5+1)

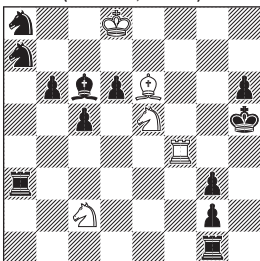
1.Se4! (zz),
1...Kf4 2.Sf6 Kf3 3.Qf2#,
1...Kg2 2.Qf2+ Kh1/Kh3 3.Sg3/Qg3#,
1...Kxg4 2.Qg5+ Kf3/Kh3 3.Sd2Qg3#,
1...Kxe4 2.Ke2 Kf4 3.Qf5#.

#n section

There were 16 moremovers published in the 2018-2019 period: D464-D466, D475-D476, D480-D481, D491-D493, D501-D503, D512-D513, D521. There were too many miniatures but few strategic moremovers. Here is my ranking:

Prize

D476 Ioannis Kalkavouras
Jacques Rotenberg
C+ (Greece, Israel)



#7 (5+12)

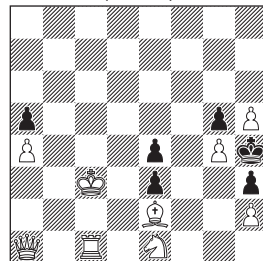
A logical moreover where the key closes black Rook's line allowing the Main Plan to work.

The Main Plan: 1.Bg4+? Kh4 2.Bh3+ Kg5/Kh5 3.Rf5+ Kh4 4.Sf6+ Kxh3 5.Rf4 fails to Ra4!.

Thus White must first close a4-h4 line.
1.Sd4! (2.Bf7+ Kg5 3.Se6#), 1...cxd4 and now the Main Plan 2.Bg4+ Kh4 3.Bh3+ Kg5/Kh5 4.Rf5+ Kh4 5.Sg6+ Kxh3 6.Rf4 & 7.Rh4#,
1...Bd7 2.Kxd7 (3.Bf7+ Kg5 4.Se6#) cxd4 3.Bg4+ Kh4 4.Rf5 (5.Rh5#) dxe5 5.Be2 (6.Rh5#) Rf3 6.Bxf3 (7.Rh5#),
1...Be8 2.Bg4+ Kg5 3.Se6+ Kh4 4.Bf5+ Kh5 5.Rg4 (6.Sf4/Sg7#) Sc6+ 6.Sxc6 (7.Sf4/Sg7#),
1...Bd5 2.Rf5+ Kh4 3.Sg6+ Kg4 4.Rxd5# (3...Kh3 4.Rh5#),
1...Sc7 2.Bf7+ Kg5 3.Rf5+ Kh4 4.Rh5#,
1...Be4 2.Bf7+ Bg6 3.Bxg6+ Kg5 4.Se6#

Honorable Mention

D492 Miloje Ilic
C+ (Serbia)



#4 (9+6)
b)Kc3→a1

An original play with two interesting sacrifices.

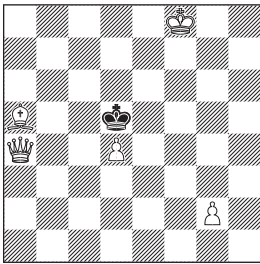
a) 1.Sd3! exd3 2.Re1! d2 3.Qd1! dxe1Q+ 4.Qxe1#;

2...dxe2 3.Rg1! (Bristol) e1Q 4.Qxe1#;
 b) 1..Bf3! e2 2..Rc4! e3 3..Be4! Kxg4
 4.Bg6#,
 (1...exf3 2..Rc4! 3..Sf3#)

Commendations in order of publishing.

Commendation

D475 Petrasin Petrasinovic
 C+ (Serbia)



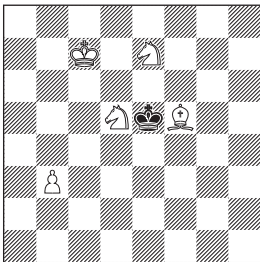
#4 (5+1)

A solid set play is destroyed by the key, leading to different mates.

Set: 1...Ke6 2..Qc6+ Kf5 3..Bd8 Kf4
 4..Qf3#;
 1..Bd2! (2..Ke7 Ke4 3..Qc4 Kf5 4..Qe6#),
 1...Ke6 2..Qc6+ Kf5 3..Qd5+ Kg4/
 Kf6(Kg6) 4..Qg5/Qf7#,
 1..Kd6 2..Qc4 Kd7 3..Bf4 Kd8 4..Qc7#,
 1...Ke4 2..Qc4 Kf5 3..Qd5+ Kg4/Kf6(Kg6)
 4..Qg5/Qf7#.

Commendation

D502 Victor Zheltukhov
 C+ (Russia)



#5 (5+1)

The white King follows in the footsteps of the black King.

1..Kd7! waiting Kd4 2..Ke6! waiting Kc5
 3..Ke5! waiting Kb5 4..Bd3+ Ka5/Kc5
 5..Sc6/b4#.

FIDE International Judge
 Mike Pric

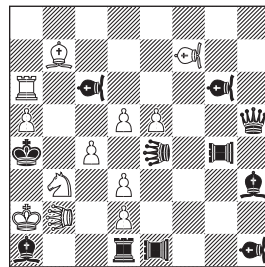
[From the Editor: Thank you, Mike, for your very quick and insightful judgement. The award will be finalized after usual three months.]

WCCT-11 課題 (6)

Section G: Fairies

課題：#3。次の3つのフェアリー駒系のうち、どれか1つを選択。1. Grasshopper, Rookhopper, Bishopper, Nightriderhopper 2. Lion, Rook-Lion, Bishop-Lion, Nightrider-Lion 3. Leo, Pao, Vao, Nao。テーマになるメイトは、問題図に存在している2つ以上のフェアリー駒のラインが利かなくなることによって起こる。

Markus Manhart
 Marcel Tribowski
 V. Kotesovec 40-JT 1996 7th Pr



#3 (12+11)

Leo 1+1
 Pao 0+2
 Vao 1+3

Continued on p.56

良き趣味

原 啓介

これまで「私のお気に入り」のリレーを読ませていただいていると正直、うらやましいような、いやむしろ嫉妬めいた気持ち湧いてきます。

と言うのも、私にはマニアとか、“-philia”と呼んでもらえるほど夢中になれるものがないのですね。これはとても残念なことだと思っています。

やはり、真剣に遊べる、ということは尊敬に値することですよ。そして真剣になり切れないということは、時に大変に失礼なことでもありますね。

それで思い出したのですが、（自慢させていただきます）私は編集長の若島正さんとチェスをしたことがあります。お知り合いになった頃、百万遍近くの焼き鳥屋さんでのことでした。こんな機会に、どれだけ真剣になってもなり過ぎることはないはずですよ。

でも、私はそういうときでも、もう一つ真剣になりきれませんでした。もちろん全敗でしたが、それを抜きにしても、そんな自分が残念でなりません。

言い訳をすれば、いつもお酒がかなり入っていましたし（好きななりにまったく弱い方ですよ）、煙草の煙が苦手なので、やむをえない面もあったのですが。

あ、ちなみに「真剣」とはお金を賭けるという意味ではないです。念のため。外国語にもあるのかどうか知りませんが、真剣、日本刀の刃の鋭さと命の危うさがイメージされて、良い言葉ですよ。

そんなわけで、「お気に入り」のバトンを齋藤夏雄さんから渡された今回は、私が色々なものに興味を持ってはすぐに飽きてしまっ

て、また退屈な日々に戻る、そんな繰り返しのお話を気楽に書かせていただこうと思いません。脱線ばかりになりそうですが、ご容赦ください。

私は久生十蘭という作家が好きなのですが、彼はシャンパンでうがいをしてから口述筆記で小説を書き採らせたという伝説があります。まあ、十蘭らしいホラでしょうが、この雑文も細かく泡立つシャンパンのようであれば良いのですが。

そんな私にも子供の頃は確かに、夢中になるということがありました。推理小説好きだった叔父から大量の本を譲ってもらったのですが、それこそ夢中で読みました。クリスティ、クイーン、カー、文庫化されている古典はほぼすべてです。私が特にお気に入りだったのはクリスタアナ・ブランドでした。

確か、ブランドの逸話だったと思うのですが、彼女が小説を書くコツを訊かれたとき、レンズを下にして眼鏡を机に置いて見せた。そして言うには、こうしたところでレンズにほとんど傷はつかない。だけれども、それを繰り返しているうちに、視界はすっかり曇ってしまうのだ、と。

こういう細部にまで徹底した注意が行き届いた感じはマニアックというか、“-philia”っぽいですが、そういうものへの憧れでしょうかね、そんな完璧さと、同時にそうは見せないお酒落で軽いムードが私の好みだったのでしょう。

さて、一通り翻訳ものを読んでしまうと、次に凝ったのは、平凡で申し訳ありませんが、

日本の一風変わったミステリ、小栗虫太郎、夢野久作、久生十蘭、エトセトラというわけ
です。

特に久生十蘭は、私が初めて全集を買った作家です。高校生の頃でしたが、それを読破したかというところでもない。あちこちつまみ食いしただけです。全集を買うだけで悦に入っていたのですね。

決定版とされる十蘭全集がのちに別の出版社から出ましたけれど、それを揃えたかというところでもない。2巻まで買って、それまでになっています。私の凝りようなってその程度のもです。

なぜ十蘭が好きになったかというところ、ブランドと同じでやはりその完璧さでしょうか。十蘭は徹底的に推敲に推敲を重ねる推敲の鬼だったと言われていますね。

確かにそういう完璧主義の面もあるのですが、橋本治がそれに異を唱える評論を書いています。完璧主義、推敲の鬼と言われている割に、あちこちつまらない間違いだらけで、どうしてそうなのか、という分析です。これもなかなかすごいのですが、十蘭の短篇「母子像」の評論もまたすごい。

こういうところから小説評論というものにも興味を持ちました。まったく異端的なところから入門したので、はなはだ趣味が悪くなってしまいましたが、お気に入りとはそういうものでしょう。

こんな風に、子供の頃からいろんなことに手を出してはしばらく熱中して、そしてまた飽きてしまうことの繰り返しでした。

チェスもそうで十代の頃、『チェスの本』(リヨネ/クセジュ文庫)を書店で手にとって以来、一時はかなり凝りました。田舎に暮らしていた私にはもちろん対局相手などいるはずもなく、葉書を使った通信戦に手を出したものです。

ちなみに、この『チェスの本』はプロブレ

ムの解説も充実していて、色々なスクール(学派)によって発展してきたことや、フェアリーについてなどもこの本で知りました。日本語で読めるチェスの入門書としては、今でも画期的かつ出色だと思います。

一言で言えば、さすがクセジュだな、という内容で、こういう教養のある知的な本は今の日本人にはなかなか書けませんね。初心者でなくてもチェス好きなら読んでいて嬉しくなるような本ですので、もしご存じなければ是非ご覧になってみてください。

チェスの他には、ずいぶん大人になってから習い始めたチェロの演奏ですとか、結局、職業化した数学ですとか、色々あるのですが、急に熱中して入門段階で既に満足してしまうパターンの典型を最近の例から一つ挙げれば、セーターを編むことです。

先ほど名前が出てきた橋本治が亡くなったのは昨年(2019年)の一月末でしたが、その訃報を聞いて、橋本治と言えば昔は、編み込みセーターで有名だったなあ、と思い出して、『男の編み物 橋本治の手トリ足トリ』(河出書房新社)を開きました。(どうしてだか昔購入したようで、自宅の書架にありました)。

その本の山口百恵や沢田研二の顔を編み込んだセーターの写真を眺めていて、面白そうじゃないか、やってみよう、と思い立ったのです。確かに親切な本で、書かれている通りに編んでみるとそれなりにセーターが出来ました。

次は編み込みの練習です。私はモンドリアンの『ブロードウェイ・ブギウギ』を図案化して、これを編むことにしました。方眼紙に色を塗ったような絵ですから、ひたすらに面倒なだけでさして難しくはないです。

そして、思った以上にごわごわでとても着れたものではないものの、とりあえず、それなりに、完成しました。



では、いよいよ曲線のある複雑な模様
の編み込みです。今度はマグリットの『イメージ
の裏切り』にしてみました。粗い編み目では
精密な絵を再現し難いので、パイプの絵と例
の一文を胸と両袖に分けてデザインしました
(写真:作品番号 3「これはパイプではない」)。

これもそれなりに完成して、私はもう満足
してしまったようです。細い毛糸を何十色も
使った精密な模様、山口百恵セーターのよ
うなすげえ編み込みが目標だったのですが。

おそらく、「理屈はわかった」という納得
感、どれだけ複雑なものでも「やればでき
るぞ」という気持ちからではないかと自己分析
します。もちろん、本当にやればできるのか
はまったく怪しいものですが。

実際のところ、ここにただの素人とプロも
しくは真のアマチュアとの差があるのです
が、そこが私の限界なのですね。自分でもわ
かってはいるのですが、そこが乗り越えられ
ないし、乗り越える意義が身に迫ってこない
のが、マニアになれない所以だと思えます。

今でも続けている趣味は、翻訳ミステリ小

説を読むことくらいでしょうか。でも読み方
は随分と変わりました。子供の頃はひたすら
に古典的名作の海が前に開けていたもので
すが、いずれそれも尽きてしまいます。

そのあとは新しいものに手を出すしかなく
なりましたが、いつの頃からか、私は「再読
派」になりました。しかも、古典的名作の再
読です。誰でも知っているような、例えば『そ
して誰もいなくなった』なんかを再読するわ
けですね。

ミステリやSFは初めて読んだときの驚き
の要素が大きく、「再読に耐えない傑作」な
んていう言葉があるくらいです。したがって
再読が趣味な人はあまりいないでしょう。と
は言え、再読派であることを高らかに歌う若
島編集長の有名な論考「明るい館の秘密」が
あるように、そう稀でもないようです。

再読して何が面白いのかと言いますと、ミス
テリはそもそも読者に対する仕掛けのある小
説ですから、その仕掛けの出来をじっくりと
分析して鑑賞するわけです。

ミステリは比較的初期の段階で、技術的に
は頂点に達してしまったようなところがあり
ますね。だから、誰でも知っているような古
典的名作にも、思いがけないほど深いたくら
みが隠されていることが少なからずあって、
その分析が楽しい。

また、翻訳というレンズがもう一枚入るこ
とには不思議な効果があります。まず当然な
がら、訳者のせいで新たな問題が紛れ込むこ
とがあります。しかし、おかげで大事などこ
ろに焦点があうということもあるのです。

その高級な例は「明るい館」などを読み返
していただくこととして、自慢ついでに簡単
なサンプルを挙げると、私はクリスティの『五
匹の子豚』でちょっとした発見をしたことが
あります。

『五匹の子豚』はさほど有名ではありません
が、クリスティが繰り返してテーマに挙げた

「回想の殺人」ものの傑作としてマニアの評価が高い作品です。

この小説の最後の方に、名探偵ポアロが五人の容疑者の一人である女性に、(十六年前の)「事件のあった当時、サマセット・モームの『月と六ペンス』を読んでおられたのではありませんか」と質問をする場面があります。彼女はどのようにしてそんなことがわかったのかと驚きます。

このようなやりとりは、ミステリやサスペンス小説で、主に探偵役がいかに頭が良いかを読者に感心させるために用いられる伝統的手法です。

シャーロック・ホームズが依頼者の素性を当ててみせるくだりは皆さんお馴染みでしょうし、新しい例では、『羊たちの沈黙』のレクター博士の「バッファロー・ビルは二階建ての家を持っている」もそうですね。

ミステリ史上初かもしれない古典的な例では、ヴォルテールの『ザディエグまたは運命』に、主人公のザディエグが見たことのない犬の詳細な姿形を言い当てる場面がありますので、ほとんどミステリの誕生と同時に生まれた古いトリックだと言えるでしょう。

この手法のポイントは、ただ言い当てるだけではなくて、その後で「種明かし」がされることです。「左の手袋からのぞいているのは往復切符の半券でしょうか」とかね。

ホームズのように即座に種明かしをする場合もあれば、もっと後のこともあり、また上のレクター博士の例のように、同じくらい頭の良い別の登場人物によって説明されることもあります。しかし、どの場合も、言われてみれば明かだ、ということが味噌です。

つまり、そんな簡単なことだったのか、と読者が思うことが大事で、これによって、逆説的ではありますが、証拠に鋭敏に目をつけ論理的に推理した探偵の頭の良さが、(凡庸な読者にも)印象づけられるわけです。

ところが、『五匹の子豚』ではこの種明か

しがありません。放ったらかしなのです。この小説の事件の被害者はわがままで傲慢な画家なので、『月と六ペンス』を想像させることは確かです。なので、私も初めて読んだときには大して気にもとめませんでした。

しかし、再読してみるとどうも変です。私は入念に『月と六ペンス』を読み返してから、今度はこの問題に注意しながら、『五匹の子豚』を詳細に読み直しましたが、どうにもわかりません。

さらに再三読み返して、私はようやく以下の一節に目を留めました。問題のこの女性が、少女だった当時、「あんなやつ、死んじやえばいいんだわ。不治の病にかかって死ねばいいのよ」と叫ぶ場面です。

こんな言い方をする人はいませんね。小説の登場人物の言葉にしても、書き手の音感が悪すぎます。そこで閃いたのは、この台詞は本当は「癩病にかかって死ねばいいのよ」だったのではないか。

もしそうならば、この少女が『月と六ペンス』を読んでいたことは、当時の教養あるイギリス人には明らかです。おそらくクリスティはこう書いてあったのだ。しかし、訳者がクリスティ自身が、差別問題への配慮から後で書き変えたに違いない。

つまり、ポアロの謎の推理の箇所は、クリスティが文学通の読者にウインクをただけだったのだ。それがこの書き変えで意味が曇ってしまったのだろう。

評論家なら、原書や翻訳の初版からの変遷を調査するところですが、私は単なる趣味の再読家なので、自分の推理に満足して、それ以上は特に調べませんでした。

が、それから長い時が経ち、ある日、神保町を散歩していると(神保町の散歩も今の私の「お気に入り」の一つです)、百円均一棚にいわゆるポケミス版の古い『五匹の子豚』(桑原智恵子訳)を見つけたのです。私は飛びつくように手にとって、該当の箇所を調べ

ました。果たして、そこには私の推理通りの台詞が書かれてありました。

そのときの私の気持ちは、理論からの予測通りの位置に惑星を発見した、というほどではありませんが、依頼者の職業を言い当てたホームズ程度には自尊心を十分に満足させるものでした。

こんな次第で、翻訳ミステリにはその事件の内容以外にも色々謎がありがちなもので、それを解読する面白さがあるわけです。例えば今は、クイーン『十日間の不思議』が気になっていますが、自慢話はこれくらいしておきましょう。

このように、私は色々なことに興味を持ってしばらくは熱心に取り組むものの、早い内に飽きてしまうのです。自分なりに分析しますと、細かいところまで詰め切れないおおよっぱな性質が問題なのだと思います。

私が数学者としての職業人生を全うできなかったのも、内面の理由はこれだったのではないかとさえ思っています。最後まで詰め切れていない数学なんて、不完全なプロブレム作品や解決篇のないミステリみたいなもので、意味がありません。まるでないわけでもないのですが、業績とはみなされません。

もちろん完全が大事なことはわかっているし、強い憧れさえ持っていますが、自分にとってはあまり大事ではない、とでも言いましょうか、身が入らないのですね。困ったものです。

それから、私が面白いと思うのは初歩の簡単なところだということもあります。複雑で高級すぎるものは好きではないのですね。チェスプロブレムで言えば、オーソドックスやヘルプの二手、しかも簡単に綺麗なのが面白いので、十手も二十手もあるフェアリーなんてすごいとは思いますが、どうも良さがわからない。

もちろん、複雑精緻で長いロジックを積み重ねないと表現できないアイデアなのだ、そこに素晴らしい世界が広がっているのだ、ということにはわかっています。

しかし、自分のハートにぐっとくるのは、新しい世界を初めて知ったときの面白さ、新しいのにどこか馴染みのある、しかし思いがけない世界が広がっていく面白さです。こういうものは初歩のうちだからこそ、自分が素人だからこそ、味わえるものでしょう。また、その分野自体が開拓段階だからこそ、という面もあるでしょう。

フェアリーでもこういう楽しさが開けるような気がする時がありますよね。もう一度、まったくの素人に戻って、新たな世界の可能性を探求できるような。しかし、やはりそこには何か損なわれている気がします。一度失ってしまった純潔は取り戻しにくいのではないのでしょうか。

病膏言に入るマニアになっても、なおこういうセンスを持ち続けられる特別な人、既に成熟して年老いた分野に若々しい命を吹き込める人もいて、そういう心持ちを初心と呼び、そういう人を天才と言うのでしょうかけれども、天才を基準にしてもしょうがない。

この意味では、現代の推理小説、チェスプロブレム、数学、これらはどれもこれも、私には難しすぎるのです。クラシックなもので丁度いい。私は「生まれてくるのが遅すぎた」と思うことが多いのですが、この感性の裏返しだと思っています。

結局のところ、私の人生に対する態度が真剣でないのでしょうか。しかるに、私は現代人にしては若いうちに職業的人生から引退しましたので、暇はたくさんある。よって、実は不向きな趣味で時間をつぶしているわけで、まさにこれを「栄耀に餅の皮をむく」と言うのでしょうか。

学生の頃、私は塚本邦雄の「閑雅なる君の

かなしみ芋環の花芽に繭ごもる蟲ありと」という歌に出会って、ああ、こういう毎日でありたいな、としみじみ思ったものです。

間違った解釈かも知れませんが、暇で優雅なあなたの心配と言ったら、せいぜい育てている花に虫がついて困る、そのくらいなのです。え、という人生です。

確かショーペンハウアーでしたか、その人がどのくらい幸福かは、その人の悩みがいかにつまらなくて、ささやかなものでわかる、と書いていました。つまり、この君は幸福なのです。

また、子供の頃に読んだトリック研究家(?)の松田道弘氏の本の後書きで初めて読んだように記憶しているのですが(その本を見つけれないので勘違いかもしれません)、「嵐の海に浮かぶ船を陸から眺めるのは楽しい」という言葉があります。

これはルクレティウスの哲学詩『物の本質について』からの引用ですが、赤恥を告白しますと、私はとても長い間、これをアガサ・クリスティの言葉だと思っていました。

その松田氏の本の前後に、クリスティの言葉として「人は少し驚かされることを好む。多くではなしに」と書かれていたような気がするのです、それと混同したようです。ルクレティウスとクリスティは名前がなんとなく似てますし。

それはさておき、ルクレティウスの詩のこの箇所は、色んなことで悩み苦しんで生きている世間の人々を、悟った哲学者は穏やかな気持ちで眺めている、というスケッチですから、芋環の歌と通じるものがあります。私はこの言葉もほとんど座右の銘にしてみました。長い間、クリスティの言葉だと勘違いしたまま。

現在の私は、こういう厭世的で後ろ向きな態度はまったくよろしくないし、失礼でもあるとは思っていますが、人生を後悔するにはも

う遅すぎる年頃です。

ただ、残りの人生をできるだけ楽しく暮らすには、なにかに夢中になる、心奪われる、真剣になる、ということをもっと学ぶ必要があるとは思っています。そのための時間くらいは残されているでしょう。

そんなわけで、時々この "Problem Paradise" を開いて、好きな二手詰を解いたり、好きでないはずの長手数フェアリーやブルーゲームに挑戦してみたりもしています。私を虜にしてくれるのではないかと考えて。

言い訳をするようですが、全然回答を送っていないものの、解いていないわけではないし、私の日々の暮らしと人生にとって重要でないわけでもないです。むしろ、エッセンシャルだと思っています。

それにこのリレー・エッセイでは色んなマニアの方のマニアックな世界を紹介していただけなので、なおさらこの小冊子を開く機会が増えました。正直、今からピアノを習ってみようか、とか、折り紙をやってみようかと思ってしまうくらいです。

そして、次号ではまた誰かが、私に新しい世界を開き、ひょっとしたら私をとりさってってくれるのではないかと。そんな風に期待しているのです。

Definitions

<一般的通則>

: 最終目的がメイトであることを表示する。

= : 最終目的がステイルメイトであることを表示する。

== : 最終目的が双方ステイルメイトであることを表示する。

v : 紛れ (try) を表す。個数は、テーマとなる紛れの数を表す。

* : Set Play を表す。オーソドックスやセルフメイトの場合は黒から指し始め、ヘルプメイトの場合は白から指し始める。作意手数から 0.5 手を引いた手数になる。

sols : solutions すなわち「解」のこと。指定された数だけ解があり、これは余詰ではなく、作意設定のうちに入っている。

b) c) ... : 問題図を a) とし、指定のように配置を変えた図を b) c) ... として、いずれも a) と同じ条件で解くこと。

◆盤上にフェアリー駒がある場合、P はそのフェアリー駒にも成れる。

◆キャスリング可能な位置にある K と R は、それが不可能であるという証明ができないかぎりキャスリング可能とみなされる。逆にアンパッサン可能な位置にある P は、直前の手が取られる P が動いたものと証明ができない限りアンパッサン不可能とする。

<問題設定>

Direct (記号無し) : #n では、白から指し始め、n 手で黒をメイトにする手順を求める。黒はそれに抵抗する。

Help (H) : H#n では、黒が白に協力し、n 手で黒をメイトにするような手順を求める。通常黒から指し始める。白から指し始める場合は、0.5 手分を引いた形で表記する。

Helpself (HS) : HS#n では、ヘルプで (n-1) 手指して、そこから S#1 になるような手順を求める。通常白から指し始める。

Proca-Retractor -n : 白から戻し始めて、n 手以内で、白が黒を 1 手でメイトにできるような局面を作るのが目的。黒は抵抗する。なお、黒にも白と同様、逆算してから 1 手詰にする権利がある。これを Forward Defense という。

Proof Game (PG) : 実戦初形から始めて、指定された手数で問題図に至るような手順を求める。

Self (S) : S#n では、白から指し始め、白が自分を n 手でメイトにさせるよう黒に強制する手順を求める。

Series-help (SH) : 黒が連続して指定された手数を指し、それから白が 1 手でメイトなどの目的を達成できるような手順を求める。黒は最終手を除いて、白にチェックをかけてはならない。

Series-self (SS) : 白が連続して指定された手数を指し、それから黒が 1 手で白をメイト (あるいはステイルメイト) にするよう強制される手順を求める。白は最終手を除いて、黒にチェックをかけてはならない。

<フェアリールール>

Annan Chess : 俗に言う「安南」ルール。縦の筋に同じ色の駒が重なっているとき、上の駒は下の駒の働きになる。ただし、1 段目に P が移動するのは禁手。3 段目の駒が P の働きをすることによるダブルステップはできない。3 段目の駒が P の働きをすることによるアンパッサンは可。

AntiCirce : 駒を取るとき、取る駒 (K を含む) は初形位置に戻り、取られた駒は盤上から消える。取る駒の初形位置が何らかの駒 (取る駒も含む) によって占領されているときは、駒が取れない。細則は Circe に準じる。

AntiCirce Calvet : 取る駒がその初形位置に着地するような取りも許す Anticirce。

AntiCirce Cheylan : 取る駒がその原形位置に着地するような取りは禁手とした

Anticirce。

AntipodeanCirce : 取られた駒は取られた位置から(±4、±4)の地点に復活する。8段目に発生したPは任意の駒に成れ、その選択は取りを行った側が決められる。1段目に発生したPは動けない。

Bicolores : Kに自分の色の駒でヒモを付けたとき、それもチェックと見なすルール。従って、自分のKをそのような状態にする指し手はselfcheckの禁手となる。

Black Must Check : 黒はチェック以外の手を指せない。チェックする手がない場合はパスで、白は続けて指せる。

Circe : K以外の取られた駒は初形位置に再生する。RおよびSの初形位置は取られた場所の色によって決まる。Pの初形位置は取られた筋の2段目。フェアリー駒の初形位置は取られた筋の8段目。取られた駒の初形位置が何らかの駒によって占領されているときはその駒は通常通り盤上から消える。初形位置に戻ったRはキャスリング可能。初形位置に戻ったPは2歩進むことが可能。

Circe Parrain : 地点aで駒が取られたとき、取られた駒はその直後の指し手(移動ベクトルをvとする)によって、地点a+vに再生する。再生場所が盤の外だったり、そこが別の駒によって占領されている場合は、再生しない。直後の指し手がキャスリングの場合、その移動ベクトルはKとRそれぞれの移動ベクトルを足す(つまり0-0は0ベクトル)。1段目に再生したPは1マスしか前に進めない。8段目にPが再生すると、その瞬間に成る。細則はCirceに準じる。

Duelist : Duellantenschach、またはSingle Combatともいう。1手前に動かし駒を、次の手番でも動かさねばならない。それが不可能なら動かす駒を自由に選べる。

EquipollentsCirce : 取られた駒は、取られた位置から取った駒の取りの動きのベクトルだけずれた地点に復活する。最上段に復活

したPは成り駒として復活する。

Köko : 着手は、そのまわりの8マスに何か駒が存在するような地点にのみ有効。チェックにもこのルールは適用される。

Make&Take : 駒を取るとき、その駒はまず取られる駒の動き(取られる側から見た動き)で移動して、その地点から駒を取る。

Platzwechselcirce (PWC) : 駒を取るとき、取られた駒は取る駒のいた位置に再生する。8段目に発生したPは任意の駒に成れ、その選択は取りを行った側が決められる。1段目に発生したPは動けない。

Point Reflection : 盤の中央を中心にして点対称の関係にあるマス目の駒どうしは、色に関わらず、それぞれの性能が入れ替わる。1段目にいるPはそれじたいでは動けない。1段目のPと対称の位置にある駒も動けない。キャスリングとアンパサンは、通常のKRおよびPのみが行える。

Regency : チェックがかかっているとき、Kの役割を同じ色またはNeutralの駒に移すことができる。

Take&Make : 駒を取ったとき、その駒は同時にそこから移動する手を指さなければならぬ。その移動する手は、取られた駒の動き(取られた側から見た動き)になる。Pは1段目に移動できない。

<フェアリー駒>

Chameleon : 動くたびにS→B→R→Q→Sの順で種類が変わる駒。

Double Grasshopper : 一度着地した地点からもう一度跳ぶGrasshopper。最初の着地地点では駒は取れない。局面を変化させない跳ね方はできない。

Dragon : S+P。

Equihopper : 任意の方向に駒を1枚飛び越して、その線上で等距離の地点に着地する駒。線上に余計な駒が挟まっている場合、跳べないとした駒を単にEquihopperと呼び、

跳べるとした駒を Non-Stop Equihopper という。

Grasshopper : Q の筋で、ある駒を 1 つ飛び越したその直後の地点に着地する駒。そこに相手の駒があれば取れる。

Leaper : S の様な動きの駒の総称。(x,y)-Leaper は駒の居る位置から縦横に (x,y) または (y,x) だけ離れた地点に着地する。間に駒があっても飛越えられる。例えば S は (1,2)-Leaper。

Leo: Chinese piece の一つ。Q のように動くが、駒を取るときはその線上で駒を一つ跳び越してその先（直後でなくてもいい）にある駒を取る。

Locust : Q の筋で、相手の駒を 1 枚跳び越して、その直後の地点に着地する駒。着地点は空いている必要があり、かつ跳び越された駒は取られて消える（取りなしで動くことはできない）。

Neutral : 白および黒のどちらからも動かせる駒。取ったり取られたりすることもできる。n の記号で表し、nQ という風に表記する。nP は成ると Neutral 駒に成る。ただし、普通の P が Neutral 駒に成ることはできない。フェアリー駒が盤上に現れている場合は、nP はその Neutral フェアリー駒に成れる。

Nightrider : (1,2)-Rider。

Pao: Chinese piece の一つ。R のように動くが、駒を取るときはその線上で駒を一つ跳び越してその先（直後でなくてもいい）にある駒を取る。

Rider : R や B など一定の方向にどこまでも進めるが駒にぶつかるとその先には進めない駒の総称。(x,y)-Rider は進める方向が (x,y)-Leaper の延長となる。例えば R は (0,1)-Rider。

Rose : 円形の軌跡を描く Nightrider。正確には、Nightrider のように直線上を進むのではなく、そのジャンプのたびごとに 45 度右（または左）へ曲がる。この利き筋の途中

に何かの駒がはさまっていると、その先には動けない。たとえば、d5 にある Rose は、d5-e7-g8, d5-f6-h5, d5-f4-g2, d5-e3-d1, d5-c3-a2, d5-b4, d5-b6-a8, d5-c7 という 8 方向に利いている。

Vao: Chinese piece の一つ。B のように動くが、駒を取るときはその線上で駒を一つ跳び越してその先（直後でなくてもいい）にある駒を取る。

Uコース (続き)

Continued from p.41

さんじろう : いや～、作者名とこの配置で天竺煙に違いないと期待が高まる。出口信男氏の新作煙が見られるとは思わなかった。最高のプレゼント。序盤 73 とを 94 に移動しないと手が続かないが、94 金をどうやって消すのかな？と不安になる。ここを突破すれば以下は平易な追い手順。上辺の横追いは 10 手 1 サイクルで 1 筋ずつじゃなく 2 筋ずつ移動するのが新鮮。この趣向の結果持駒に香(天竺煙では最強の駒)が 4 枚も集まるのが珍しい。収束は手数ながいが全部でひとまとめの手順と考えるべき。もちろん煙でこの収束は新型。きっと煙のストックはまだまだあるのでしょうか。待ってますよ。収束で早詰があったのは残念です。修正を期待して待つ。若島 : 新しい横追いと縦追い。すばらしい！修正を待望。

WCCT-11 課題 (6) (続き)

Continued from p.44

1.Rb6! [2.Sc5+ Kxa5 3.Rb5#]

1...VAXd5 2.VAe8+ LEXe8 3.Bxc6#

1...PAxc4 2.Bxc6+ LEXc6 3.Rb4#

1...VAXd3 2.Rb4+ LEXb4 3.LEc2#

1...PAxe5 2.LEc2+ LEXc2 3.VAe8 #

第 89 号解答成績

	D	E	H	S	F	R	U	計
Max	45	25	105	15	90	30	35	345
内田 昭	10		62.5	7.5	20		25	125
及川弘典			105				30	135
小畑 勉	15	2	42.5	10				69.5
神在月生	5	2	15				20	42
九尾	20		70				25	115
黒川智記	30	7	72.5	15	40		30	194.5
小林看空			105		35			140
駒井信久			105				35	140
齋藤光平			20				25	45
さんじろう							15	15
塩見 亮		14	37.5	10			12.5	74
則内誠一郎	20	13	105	10	55	4	25	232
太刀岡甫	26		90	12.5	58		35	221.5
中嶋正和	20	6	30	7.5	10			73.5
原岡 望		0	5				20	25
星野健司	45		100	10			30	185
松崎直樹							5	5
水野勝久	10		26	5	13		10	64
宮嶋亮一	19							19
若島 正	44	15	105	15	78		35	292

第 89 号の解答者は 20 名で、にぎやかになりました。

初参加は神在月生さん、黒川智記さん、太刀岡甫さんの 3 名。これからも解答参加を続けていただければ嬉しいかぎりです。どうぞよろしく！

成績は、1 位が若島正さん……、あ、わたしでした。292 点 (85%) の成績。

2 位は則内誠一郎さんの 232 点 (67%) で、3 位と 4 位には解答初参加の太刀岡甫さんと黒川智記さんがそれぞれ 221.5 点 (64%)、194.5 点 (56%) の好成绩で入りました。

以下星野健司さん (185 点)、小林看空さん (140 点)、駒井信久さん (140 点)、及川弘典さん (135 点)、内田昭さん (125 点)、九尾さん (115 点) が 100 点越えでした

今号も、みなさまの解答参加をお待ちしています！